



農事視察要覽

~~274
403~~

特



始



特110
936

農事視察要覽

大正
2. 10. 2
内交

緒言

本書は本會主催全國農事大會并に第七回全國園藝大會開催に際り全國各府縣より來會の序を以て本縣農業を視察せんとするものに使せんとし編纂せるものにして書中總說に於て農業の一斑を紹介し各說に於て視察の價值ありと認むる箇所を摘記せり

大正二年八月

富山縣農會

富山縣農事視察要覽目次

甲 總說

一、地勢氣候	一
二、水利交通	三
三、農業機關	五
四、農業土地	七
五、農業戶口	八
六、農業資本	一〇

目次

七、農業土木	一一
八、農村自治	一三
九、農家副業	一四
一〇、農家生計	一九
一一、米穀	二〇
一二、園藝	二二
一三、裏作	二四
一四、殖林	二六

乙 各 説

上 新 川 郡

一、縣立農事試驗場	二九
二、大澤野開墾地	三一
三、常西合口用水	三二
四、日方江の稻種	三四
五、大山縣營模範林	三五
六、船峯用水	三六

中 新 川 郡

一、上條村耕地整理	三八
二、立山村農會	三九

三、寺田村青年團……………	四〇
四、上阪農場……………	四二
五、室山野用水……………	四四
六、伊井永代農園……………	四六
七、下條用水……………	四七
八、利用藁蕈……………	四九
九、大崎野用水……………	五〇
下 新川郡	
一、天神山樹苗圃……………	五二
二、下野方村の梨……………	五三

三、郡立農業學校……………	五五
四、長島家々庭果樹園……………	五六
五、黒部山中の密林……………	五八
六、大家庄村耕地整理……………	五九
七、新川藁蕈……………	六一
八、前澤村の稻種……………	六二
九、黒部西瓜……………	六三
一〇、無限責任上原信用組合……………	六五
婦 負 郡	
一、卯花戦役紀念森林……………	六六

- 二、牛ヶ首用水……………六七
- 三、八尾町の蠶業……………六九
- 四、吳羽山の果樹……………七〇
- 五、櫻谷行啓紀念樹苗圃……………七一
- 六、吳羽地方の茶業……………七十二
- 七、宮川村耕地整理……………七三

射水郡

- 一、横田村の自治……………七五
- 二、黒河村の果樹……………七七
- 三、江尻家々庭果樹園……………七八

- 四、中曾根村耕地整理……………八〇
- 五、北陸人造肥料株式會社……………八一

氷見郡

- 一、氷見甘藷……………八三
- 二、論田箕……………八四
- 三、土谷農場……………八六
- 四、氷見壘表……………八七
- 五、十二町潟の排水……………八九
- 六、氷見藁製品……………九〇

東礪波郡

- 一、縣立農學校……………九二
- 二、井波町の蠶種……………九三
- 三、庄川流域の稻種……………九四
- 四、箕谷村の自治……………九七
- 五、二萬七千石用水……………九九

西礪波郡

- 一、福光の吊柿……………一〇〇
- 二、無限責任山川信用組合……………一〇二
- 三、越中菅笠……………一〇三
- 四、西礪波郡蘭蕙同業組合……………一〇四

- 五、福光町の製絲……………一〇六
- 六、有限責任鷹栖村共同販賣購買組合……………一〇七

富山市

- 一、富山縣内務部勸業課……………一〇九
- 二、富山縣米穀検査所……………一一一
- 三、富山縣蠶業取締所……………一二二
- 四、富山縣農會……………一二三
- 五、富山縣産牛馬組合聯合會……………一二四
- 六、産業組合中央會富山縣支會……………一二五

高岡市

目次

一、越中製乳株式會社……………一六

附錄

一、農業統計要覽……………一

二、名勝舊蹟案内……………七

三、旅館案内……………九

四、鐵道哩程賃錢表……………一

五、汽車發着時間表……………一四

富山縣農事視察要覽目次終

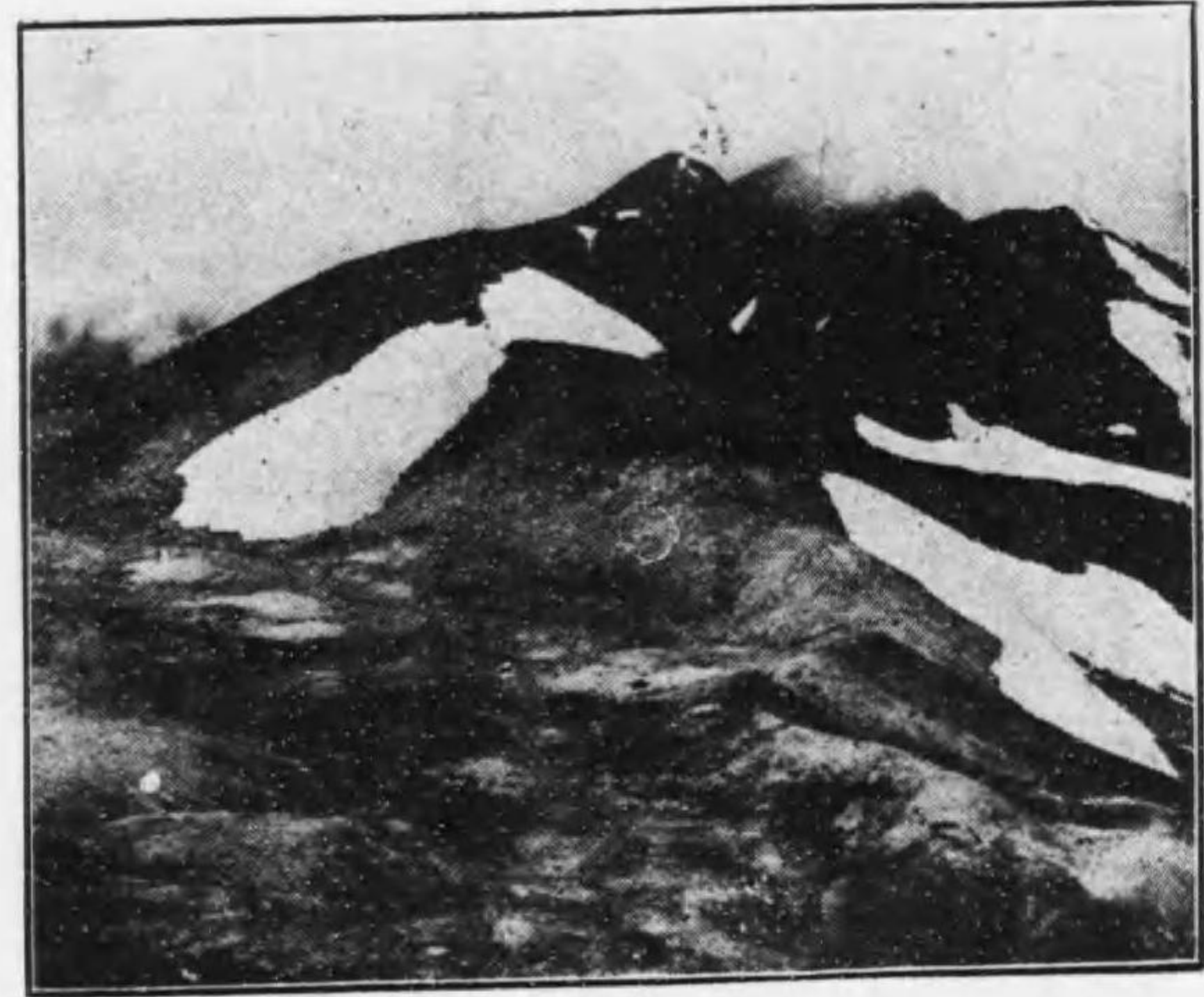


富山縣農事視察要覽

甲 總說

一 地勢氣候

富山縣は西經約二度三十分北緯約三十六度四十三分に位し、管内を上
新川、中新川、下新川、婦負、射水、氷見、東礪波、西礪波の八郡富山、
高岡の二市に分ち、面積三百餘方里、河脈は概ね北流して富山灣に注ぐ、
地味は肥沃にして時に洪水の害を被ることあるも灌漑の利便頗る大にし
て山嶽圍繞の内は一望皆これ稻田ならざるはなし、氣候は毎年一月より



夏時立山連峰の白雪

多量の積雪を見、概ね三月上旬に至りて消失す、爾來氣溫漸次上昇し、六月中旬に入り雨天多く、且つ溫度高く、梅雨の天候となり、八月上旬一箇年間の高最溫度を示し九月下旬に至り最早秋季の状態を示し、十一月に入り寒氣頓に増加して初雪を見、十二月に入り寒氣一層加はる、故に冬季三箇月は野外作業を營む能はず各種の家内の副業に従ふを常とす。

二 水利交通

本縣は東南西の三面山嶽重疊し、北方日本海に面して一大灣をなせり、庄川、神通川は飛驒より發し、常願寺川、早月川、黒部川は立山より發し共に富山灣に注ぐ、溜池は二千六百七箇所にして其の面積百二十五萬一千五百八十六坪に及び、用水路は一萬八千百十二流、其の延長二百三十七萬八千五百五十九間なり、交通は年次發達を致し今や山村僻邑と雖も交通、運輸、通信に不便を感せず、北陸街道は石川縣南谷村より石動町に入りて下新川郡泊町に至り新潟縣に接せるもの三十里餘、更に飛驒國界より婦負郡細入村に入り富山市に至る飛驒街道あり、其の他縣、郡、里道は縣下各町村に通せざるなく其の里程九十三里に及ぶ、鐵道

は院線北陸線は石川縣より入りて石動驛に至り高岡、富山の大都市を貫き堺驛より新潟縣市振驛に達する五十四哩あり、私設中越線は東礪波郡城端驛を發し高岡、伏木の重要驛を経て氷見驛に至るの二十八哩あり、院線滑川驛より五百石驛に至る八哩の立山輕便鐵道あり、四十三年に於ける鐵道乗客三百三十四萬人、降客二百十五萬人にして逐年激増し、貨物の出入亦四十五萬七千噸に及び、馬車三十七臺、人力車千五百餘臺荷車一萬六千九百臺、電信電話亦二市二十七町村に架し、河川の舟路各川これに便す、伏木港は裏日本の要港にして其の輸出入額千五百二十七萬圓に上り、氷見、東岩瀨等の各港これに次ぎ總計二千五百五十五萬圓に達し、四十二年の輸出超過二百六十九萬一千餘圓を示せり。

三 農業機關

本縣に於ける農業行政は内務部勸業課の主管するところにして、農務掛、蠶絲掛、商工掛、水産掛、森林掛に分課せり、他に米穀検査の事務を司る富山縣米穀検査所あり、蠶絲業法に依る富山縣蠶業取締所あり、産業に關する事項を審議する富山縣産業調査會あり、農業助長の機關たる富山縣農事試驗場あり、農業教育機關たる甲種程度の富

富山市外郊牛島地方の蔬菜



山縣立農學校あり、乙種程度の下新川郡立農學校あり、農業自治の機關たる富山縣農會は各郡農會を以て組織せられ盛に活動せるあり、二百六十九ヶ町村農會あり、二百五十餘の産業組合は産業組合中央會富山縣支會を組織せるあり、更に中新川郡、下新川郡、西礪波郡、東礪波郡に郡部會の設立を見る、産牛馬組合は縣下各郡に組織せられ更に富山縣産牛馬組合聯合會を組織し、蘭業發展の爲めに各郡に蘭業組合あり、茶業發展の爲めに各郡に茶業組合あり、副産藁製品の検査統一を計る爲め上新川郡、中新川郡、下新川郡、氷見郡に藁商同業組合あり、其の他東礪波郡種田村、青島村に越中稻種同業組合あり、特別の目的を有する各種組合あり、蠶絲業組合あり、富山市に富山縣米穀協會あり、富山縣農政研究會

あり、富農俱樂部あり、新川三郡を區域とせる新川農窓會あり、東西礪波郡に兩礪農友會あり、氷見、射水兩郡を區域とせる水氷農友會あり、各種の組合團體相呼應し、本縣農業行政の指導に従ひ一致協力活動せるを見る。

四 農業土地

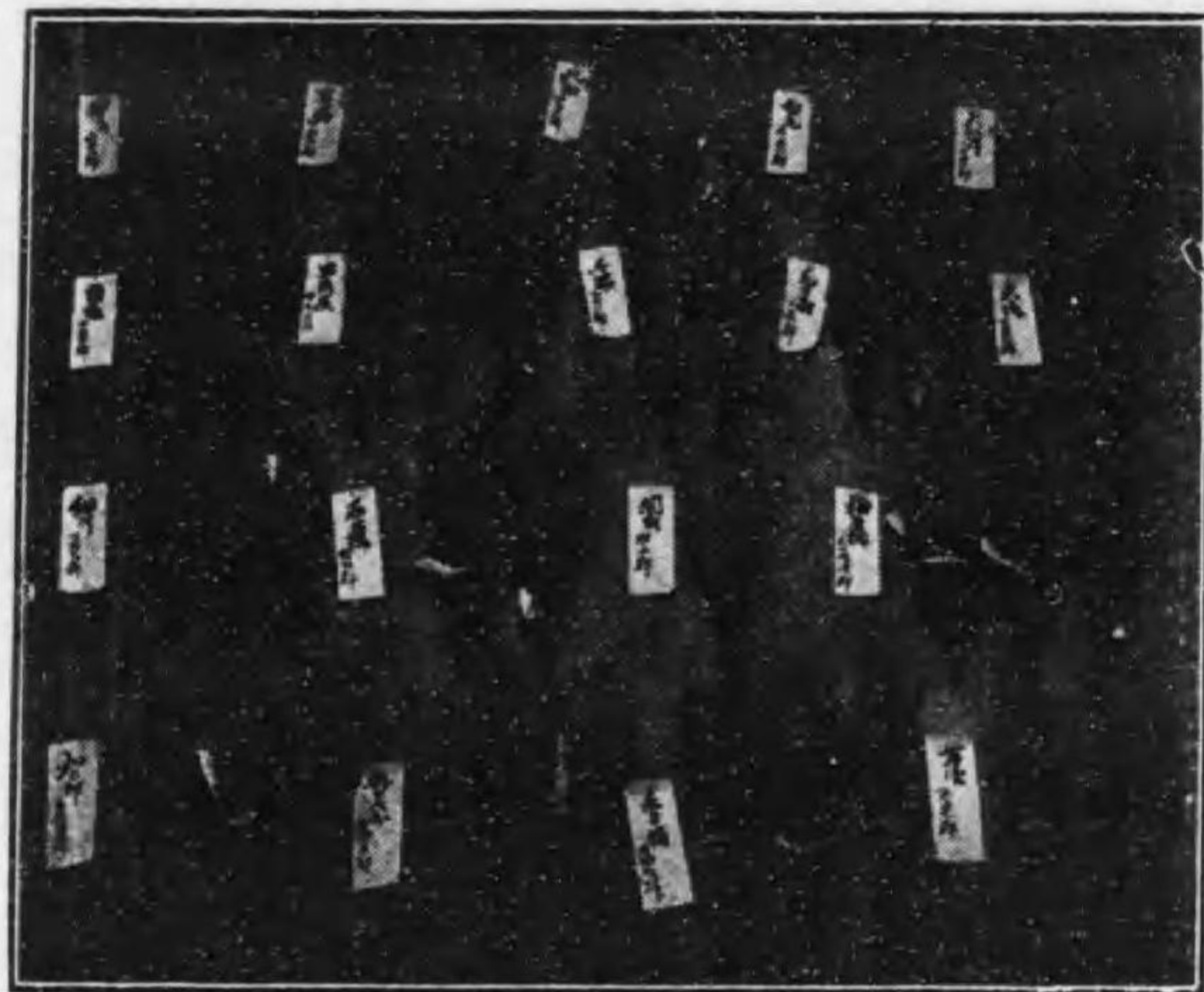
本縣に於ける土地總面積は實に三百一方里にして内官有反別八萬二千四百四十四町、民有有租地反別十八萬二千八百六十九町餘あり、民有有租地中の田は七萬九千四百六十六町畑一萬六千八百十六町宅地六千七百七町、山林五萬四千四百二十四町、原野三千七百二町其の他三十一町にして、耕作田十七萬九千四百二十七町中自作地は三萬四千七百五十三町、

小作地は四萬四千六百七十四町あり、畑地一萬六千八百十六町自作地九千四百五町、小作地六千九百九十四町あり、農業に従事せる農家八萬九百八十四戸に對する耕地一戸當左表の如し、

農家總戸數八〇、九八四^戸畑^田 九八〇^二合計一、七一〇

五 農業戸口

本縣に於ける本籍地人口は八十五萬五千三百四人にして現住戸數十三萬五千同じく人口七十八萬六千人なり、而して農家戸數は八萬九百八十四戸にして内農業を専らとするもの五萬六千四百七十四戸、農を主として他業を兼ねるもの九千四百六十一戸なり、又農業者數は男女を通じて二十七萬九千三百十人にして農業を専らとするもの十九萬七千百十五



富山縣下の稻種(其一)

人、農を主として他業を兼ねるもの五萬三千八百十一人、他業を主として農を兼ねるもの二萬八千三百八十四人なり、以上の統計中總戸數は年次減少の傾向を示し、殊に農業者數中自作及び小作農家の漸減を示し、僅かに自作兼小作農の増減を見ざるのみ、其の農業従事者に於ても年次減少しつつあるを見るも、獨り兼業農業家の増加を示し、專業農家の著しき減少を表せり、

同農家戸數及び農業者數を示せば左の如し、

農家總數八〇、九八四 ^戸		農業者數二七九、三二〇 ^人	
自作農家	一九、四九六 ^戸	專業	男一〇九、四五五 ^人 女八七、六六〇
自作兼小作農家	三七、六七五	兼業	男四四、七〇三 ^人 女三七、四九二
小作農家	二三、八一三		

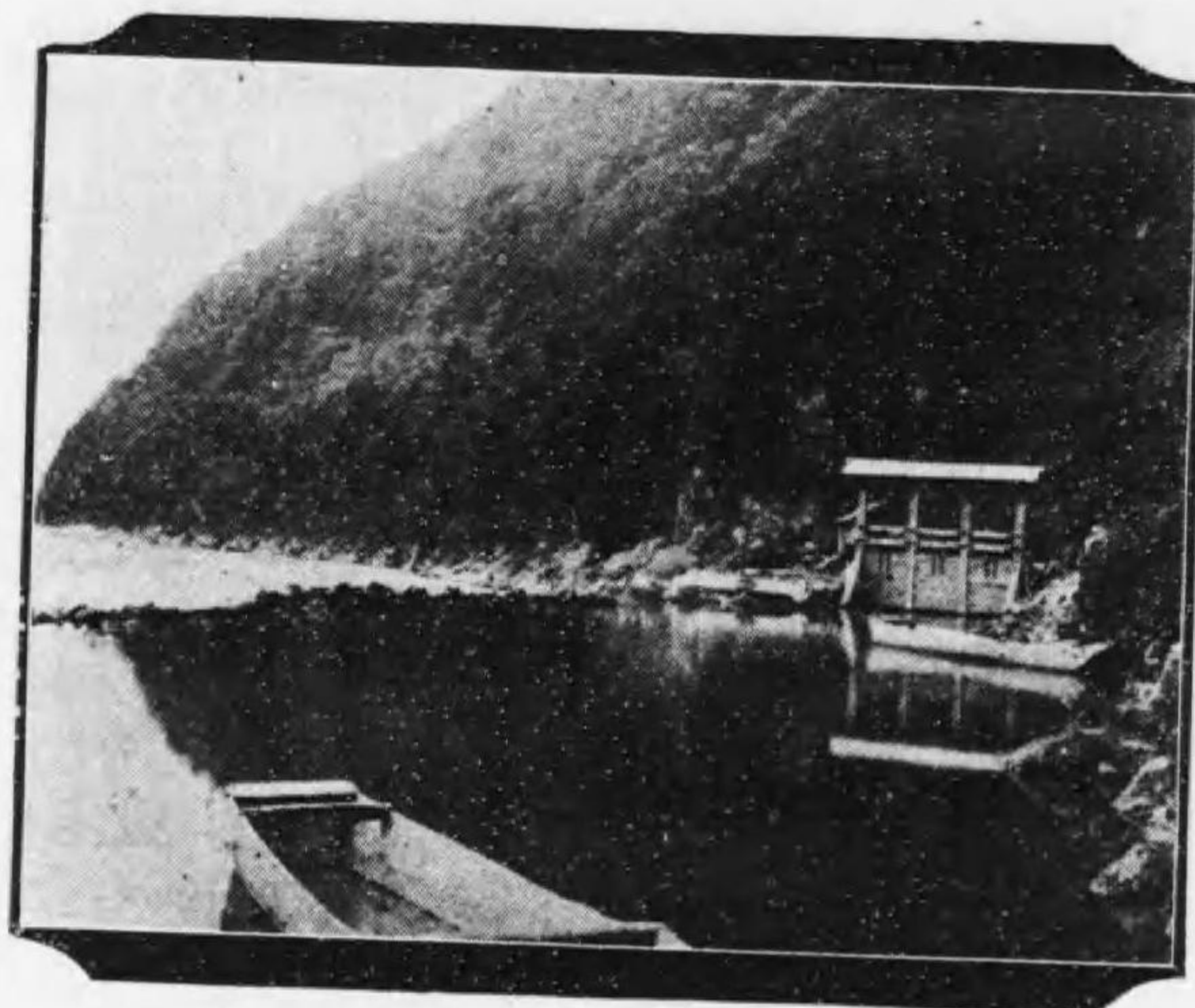
六 農業資本

本縣農業の經營上に要する各種資本は明治四十年富山縣經濟的民力調査の結果、機械器具損料、所要原料、借金利子、勞銀、親作、納米又は持主へ納金、役畜料肥料代其の他一切の資本を合せ農産元資一千三百六十四萬餘圓、畜産元資十五萬二千四百七十圓、林産元資三十五萬五千八百八十圓、親作元資二十七萬九千八百二十九圓合計一千四百三十九萬二

千三百二十七圓に上り、一方農家の負債は不動産を擔保とせる負債を除くも尙は無擔保借入金三百六十八萬圓不動産以外の物件を擔保とせる借入金一百四萬三千圓に上れるを見る。

七 農業土木

本縣に於ける農業土木の狀況は未だ舊態を改めずと雖も、普通灌漑水路の統一經營の改善は年次面目を新にし、旱魃水害の豫防に努むるも天與の地勢は未だこれ等を絶對的に豫防するを得ざるは甚だ遺憾なりとす、然れども耕地整理の如きは年次進捗を見るに至り基本調査の如き管内を九區に分ち三十九年六月以來施行中の處四十五年三月全く完了し、整理實施の箇所は三十三年以來發企認可及び組合設立認可を與へたる地



芹谷野用水取入口

區は六十箇所總面積四千二百十九町餘に達し、内工事完了せるもの九箇所其の面積二百六十一町餘、工事中の地區三十四箇所この竣工面積千五百四十五町餘にして四十二年時の皇太子殿下北陸行啓の御事あるや事業頗る勃興し目下測量設計補助中のもの七十箇所總面積七千九百四十八町九反餘にして、これを通算せば百三十箇所一萬二千六百六十八町餘に達し、管内耕地の面積九

萬町餘に比し八分の一に及べり。

八 農村自治

本縣に於ける農村自治の状態は一般に進歩發達の事績を見るを得ずと雖も、町村制實施以來逐年多大の困難を排して自治的活動を致せる結果今や漸くその緒に着き、山間僻邑に至るも其の村役場小學校等白堊の建築美事なるあり、青年團の事務所あり、公會堂を建設せるあり、道路は車馬の通せざる地なく、民家亦整ふこと昔日の如くにあらず、或は隔離病舎の設備或は消防隊の組織等亦漸次普及を見んとし、各種基本財産の蓄積其の他貧民施療の設備をなせるもの等亦尠なしとせず、内務大臣の選奨せられたる中新川郡西加積村の如き、同早月加積村の如き、又射水郡

横田村の如きあり、補習教育の事績舉れる中新川郡寺田村青年團の如きあり、農村經營に熱心なる東礪波郡叢谷村あり、射水郡掛開發村あり、農業村是を設定せる氷見郡内二十二ヶ町村の多數に上れるあり、時に水災の慘狀を蒙り或は米作專業の農業は不作の慘害に民力を失ふこと幾十回なるを知らずと雖も、時代の進歩と共に今や昔日の狀態を認めざるに至れる亦多少の進歩と云はざるべからず。

九 農家副業

農家副業の生産尠ならずと雖も其の重なるものは左の如し。

一、**藁製品** 藁製品は本縣農家の一大副産たり、富山縣農會の調査に依れば其の産額一百万圓を超ゆ、上新川郡、中新川郡、下新川郡、氷見郡



藁草刈取の實況

に最も多く製織し、各郡藁蕙同業組合を設け、藁蕙は勿論藁繩其の他の製品を検査し、且つ其の製織の改良を指導し主として北海道地方へ輸出せられ、本縣農家經濟上重要な位置を占む。

二、**養蠶** 養蠶は山間地方並に畑地割合に多き部落に行はれ、産繭二萬石其の金額六十三萬八千圓に上り、年次増加の傾向あり、桑園の反別四千餘町歩、養蠶の戸數一萬四千戸あり、蠶種を製

造するもの亦百三十八戸に及び、其の製造金額十二萬圓に上り、各郡に蠶業専務の農業技手を置き、蠶糸掛これを統一し斯業奨励に努力しつゝあり。

三、蓄産 本縣の畜産は家禽並に乳牛の飼養を專業とするものあるの外農家の副業として牛馬豚鶏を飼養するに過ぎず、家禽は鶏を主とし、西礪波郡高波村に江波家禽購買販賣組合を中心として發達せるが如き、射水郡作道村地方の養鶏業の如き聊か見るに値す、産牛馬は各郡に産牛馬組合あり其の聯合會あり畜産業各般に涉つて指導奨励を怠らず、今や毎年牛三百五十九頭、馬三百九十七頭を産出す。

四、製茶 茶園は五百三十八町歩あり、主として山間地方農家の副業と

して栽植せられ製茶戸數三千餘戸其の生産額十萬圓に上り、年次發展の氣運を見つゝあり、茶業は婦負郡最も盛んにして射水郡中新川郡これに次ぐ、近時各郡は茶業組合を設け製茶教師を聘して講習を開き或は共同製茶所を建設し孜孜としてこれが改良を怠らず、近時製茶機を共同使用する等著しく其の面目を改めたり。

五、菅笠 菅は西礪波郡福岡地方の特産にして其の製作は同地方農家の副業たり、其の製作百六十三萬蓋に上り、金額十九萬三千圓に及ぶ、近時越中菅笠同業組合を設け、或は菅笠信用購買販賣組合を組織して製品の統一を圖り、販路の擴張を期しつゝあり、菅は笠を製造するの外各種の製作物を案出して全國各地に名聲あり。

六、製紙 製紙は楮を原料として山間地方の農家に起り、今や藁を以て製造するもの平地農村に普及しつゝあり、東礪波郡、婦負郡、氷見郡、西礪波郡、下新川郡を主なる産地となす、その地方の村農會は製紙傳習所を設けて教師を招聘し、或は實地の指導をなし、或は學術の講習を開きて製紙改良の實を擧げつゝあり。

七、蘭莖 蘭草栽培の奨勵、蘭莖製織の普及は富山縣農會の事業として今日に至れり、蘭草の栽培段別は百七段三畝歩、其の産額十一萬七千五百八十六貫に上り、莫産類五十八萬枚其の金額六萬二千圓の製作あり、氷見郡の如きは氷見壘表の名既に四方に高く、西礪波郡の如き輸出花莖製織を以て其の名阪神市場に現はるゝに至り、各郡に組織せる組合は專



小川寺村の盆踊

任技術員を置き各種の製織、染色等の指導は勿論、蘭草栽培の方法を指導し、一方郡に蘭草專任の技術員を置き縣農會の指導に則り、官民相呼應し斯業助長に努めつゝあり。

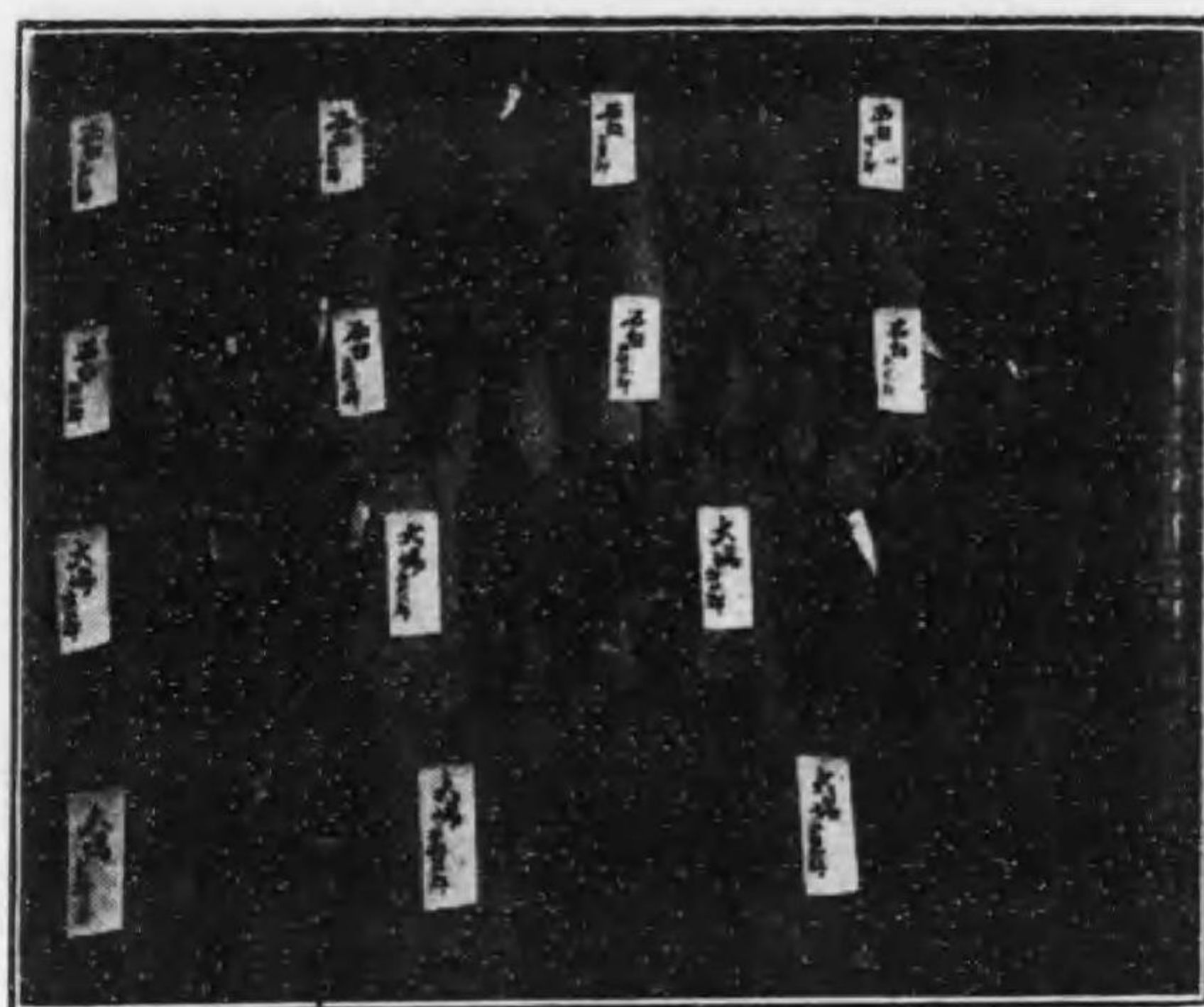
一〇 農家生計

本縣農家の生計は未だ素朴の域を脱せずと雖も、近時交通機關の完成と共に著しく奢侈の風習に感染し、殊に尤も質朴なる村風ありし下新川郡地方農

村の如き富直線の大工事ありし以來、開通の運びに至る間に於て甚しき變遷を見るに至り、従つて舊時の美風良俗を化して文明の餘弊に染溺せんとするの傾向なきにあらず、然れども一昨年以來米價高く大地主は勿論自作農家の大部分は意外なる所得を收め、或は舊債を償還し、或は商工業界の資本に投ずるものあるの外、農地を購入せんとするもの續出し水田一段歩二百圓内外なりしもの今や五百圓内外を上下するに至り、生計亦漸く粗風を脱して贅澤に流れ、一朝米價下落に際せんか再び救濟すべからざるに至らんとす、寔に警戒を要すべきなり。

一一 米 穀

本縣は古來多額の米穀を生産し、越中米の名斯界に顯はる、米作田段



富山縣の下稻の種(其の二)

別七萬二千八百三十四町歩平年實收額百五十一萬七千二百四十七石、縣外輸出高平均八十萬石餘とす、従てこれが生産の増減は一縣經濟上多大の關係あるを以て、天惠の農穰に待つの外尙ほ人爲の許す限り積極的施設を致し改良増産を計りつゝあり、米穀検査事業の如き其の一にして、明治三十七年以來米穀検査所を設け生産米の検査を實行し、一方輸出米検査を行ひ、三百有餘

の検査關係吏員を常置し實施せる結果其の成績頗る顯著にして、市場に於ける聲價は一轉して一石に對し常に一圓内外の騰貴を示し、需要各地に於ける信用を博し、殊に精米の輸出は連年累加し前途頗る有望となり改良の効果を現實に示せるを見る、而して收穫の増加に對する獎勵に於ても決して怠らず、或は稻種の統一、鹽水撰の獎勵を計り、或は短冊形共同苗代の普及を致し、時に病害蟲の驅除豫防に努め正條植の指導、原種田の設置、乾燥調製の實行を嚴にする等縣郡町村自治體は勿論、各級農會各種團體相呼應し全力を傾注せる結果累年收穫の増大を見つゝあり。

一二 園 藝

本縣の園藝は畑地少なく、天惠の利乏しきを享け其の發達甚だ遅々た

りと雖も、縣農會の獎勵はこれに力を致し近く面目を更新するに至らんとす、目下の生産物は甘藷、青芋、蘿蔔、茄類を主なるものとすと雖も、尙ほ中新川郡に上島葱の如きあり、下新川郡黒部西瓜の如き、福光地方吊柿の如きあり、富山高岡兩市附近の蔬菜栽培の如き注目し値するもの亦少なしとせず、而して近時果樹園藝の勃興を見るに至り、婦負郡吳羽山一帶の果樹の如き、射水郡黒河村の如き近き將來に於て果樹村の形成を見んとす、殊に地主にして漸く園藝の利益と趣味とを喚起し來り娛樂的に數十本の果樹を栽培せんとするもの續出するの外下新川郡柵山村長島家の如き射水郡片口村江尻家の如き既に家庭果樹園を創立して茲に年あり、經營克く整へ地方農界を利せしこと尠少にあらず、縣農事試

驗場は時世の然るを機とし爾來技術上の指導を怠らず、近く衰頹の傾向ありし地方園藝界は漸次舊態を脱して新運の開發を致さんとする難きにあらざるを思はしむ。

一三 裏 作

本縣は殆んど米作を主とせるを以て裏作も亦米作の裏作以外に説くの必要を認めず、古來本縣は綠肥として紫雲英の栽培盛んにして、其の面積實に四萬六百五十餘町に達す、これを米作田面積七萬二千八百餘町歩に比し五割一分四厘に相當し、これが一段歩の平均收穫亦三百貫内外に上り、其の栽培の技術亦甚だ熟練せるものあり、今其の面積を全國各府縣の狀態に比せんか本縣は實に第一位にあり、故に紫雲英收穫の増減は



氷見郡自然生苜蓿

本縣肥料經濟を左右するの狀態にあり爲めに米作の收穫に影響せしこと尠なからず、近時縣農會は綠肥獎勵に全力を傾注しつゝあるに際り偶々氷見郡に於て野生苜蓿の繁茂せるを發見し、これを採種し各郡に試作せしめしに成績佳良なりしかば、紫雲英の育成良好ならざる濕田に栽培普及せしめんとし研究を怠らず、近く數年を出てずして紫雲英及び苜蓿を以て稻の裏作となし、

緑肥の生産を増大し肥料經濟の發達を致さんとす。

一四 殖 林

本縣の林産物は薪炭材の二十五萬圓を初め用材木炭其の他を合せ六十八萬五千餘圓を示せり、本縣は三方山を以てせるを以て人跡未到の地多きも維新後大に濫伐せられ、林相次第に荒廢し管に用材薪炭の缺乏を來すのみならず、比年洪水の慘害を蒙り近く下新川の水災の如き殆んど復舊し難きの慘狀に陥れり、爲めに本縣は主として砂防植林の經營に努めつゝあるのみならず、保安林の調査を嚴密に行ひ、經濟的林地十一萬四千有餘町に對しては極力殖林を奨勵し、或は新植及び樹苗圃に補助金を交付し、或は公有林野の整理を奨勵し、或は特別樹種の苗木を交附し、時

に林産物製造の講習を開き、或は縣有模範林の經營、日露戰役紀念林を經營し、四箇所の行啓紀念樹苗圃を設置する等各種の施設をなし、林業百年の大計年次其の事蹟を表せるを見る。

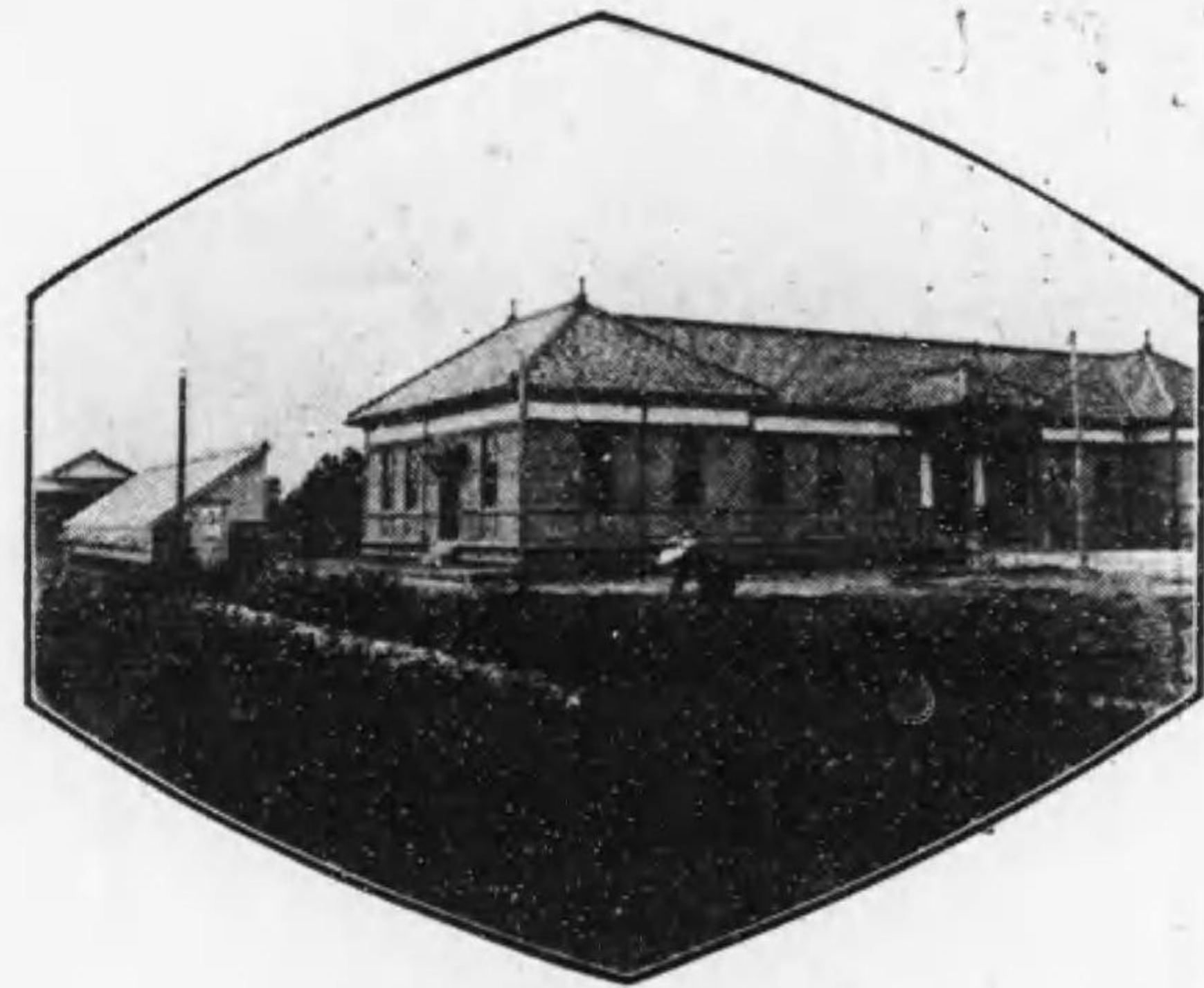
各
說

乙 各説

上新川郡

一 縣立農事試驗場

富山市郊外南方十町餘にして上新川郡堀川村なる縣立農事試驗場に達す、明治二十二年上新川郡奥田村に設立し、次に東礪波郡福野町に移轉し、超へて明治四十一年この地に移轉し今日に至れり、技師二名、技手四名、書記助手各一名、外に練習生五名を置く、經費毎年一萬餘圓を投し、水稻並に水田利用、荳菽、蔬菜、果樹、家禽、害虫、病害、野鼠等



縣立農事試驗場

に關する試驗實地指導をなし、土地二町四段四畝歩を有し、本館及ひ本館付屬建物、家禽舎、肥料舎、收納舎及び付屬建物、温室を設け、分析鑑定、種苗配布、種禽種卵拂下野鼠チブス菌配布等民間直接せる事業尠からず、堀川村に移轉せる以來年次改善の結果場内の光景亦著しく其の面目を改めたり。

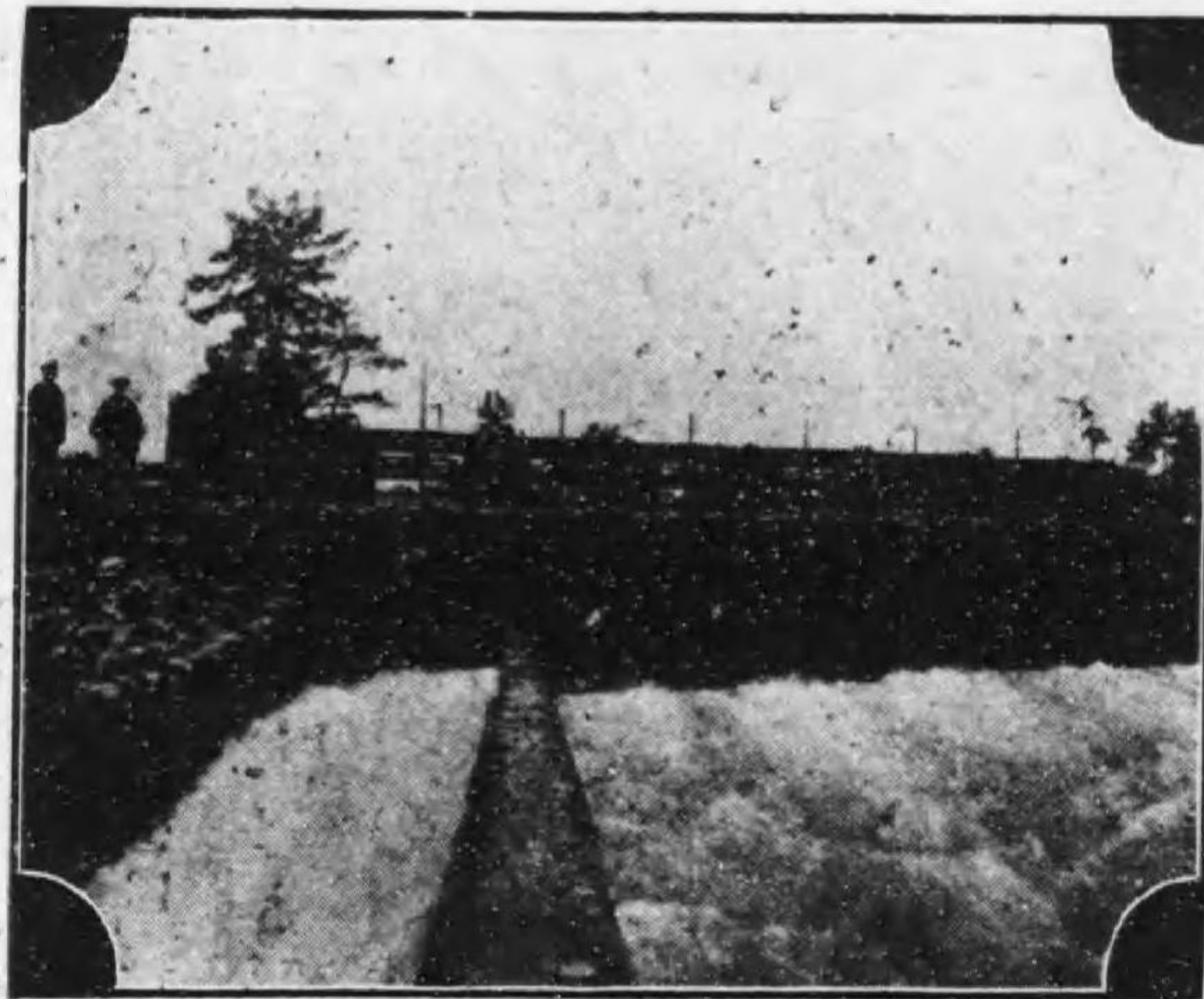
二 大澤野開墾地

富山市より南進すること三里餘にして上新川郡大澤野村に達す、昔時荒蕪の地として藩主大砲射的場に充てたりしが、高木屋某其の一部の開墾を初め苦心慘憺用水の開鑿に努めたるも、其の功成らす遂に慶應三年に及び兵衛、太左衛門、兵助、甚次郎、新兵衛等出願拂下を得、藩其の代金二萬兩を支出して用水路の開墾に努めたるも、廢藩と同時に放擲せられ、越えて明治三十六年に至り大澤野普通水利組合を設け着々開墾を進め小作人を移住せしめたるも灌水不充分の爲め成功を見ず、遂に内野信一殆ど同土地を買収し、三十七年耕地整理法に依り開墾せんとし、富山縣農會の測量計畫に則り地區二百七十八町九段三畝十歩と定め、三十八年

より工事に着手したる結果、意外に良好にして四十四年七月に至り耕地整理組合を設立するに至れり、四十四來現在完成水田百六十六町三段餘其の移住農家百一戸に及び、内野家亦農場事務所を設け、小作人百五十二戸を監督し指導獎勵を怠らず。

三 常西合口用水

常西合口用水は上新川郡上瀧町外十六箇町村の組合にして其の起源は明治二十四年九月十九日常願寺川未曾有の大洪水あり、關係住民の被害凄慘たりしかば根本的大工事の必要を認め内務省より技師デレーケーの來縣を求め、沿岸數箇の取入口を合併し上流上瀧町より隧道を鑿ち、常西合口用水組合を設立し工費一萬八千二百餘圓、縣費補助一萬七百三十



常西合口用水

常西合口用水流杉水門

五圓餘を以て新水路の開鑿に着手し延長三千四百八十間、上流上瀧町地内に第一隧道、第二隧道、上瀧砂溜長六十年幅四十間の工事成り、明治二十六年再びデレーケー技師の來縣を求め更に上瀧町字鷹泊り屏風岩に第一隧道を掘鑿し、常願寺川底に巨大なる柵を設け各所の閘門改築をなし、砂土水門を設け用水の沿岸頗る壯觀を極む、今や灌漑段別六千五百二十三町餘創設以來の

工費四十萬圓、本年度經常費一萬二千餘圓を要し、明治四十四年水利組合法に依り組織の變更を見たる以來灌漑田段別六千八百三町五畝十二歩となり、其の規模の大なる縣下第一とす。

四 日方江の稻種

院線東岩瀬驛より一里にして上新川郡濱黒崎村に達す、日方江村は濱黒崎村の一大字にして有名なる稻種子の産地なり、其の地域約六十餘町歩、約千二百石以上の純良種子を産出し、大部分は縣内に其の他は石川、新潟等の諸縣に搬出す、種粃の産額は僅に千二百石なりと雖も、採種地として茲に殆ど一百年多少の盛衰なきにあらざるも、連綿繼續して今日に至り、然も其の採種區域は略一定して精良の種子を採收するには風土



大山縣營模範林

大山縣營模範林

の關係上擴張を許さざると共に、減縮することなくして今日に至れるもの、必ずや採種地として適切なる素因あるべし、江上清右衛門は部落有數の篤農家なり、就て承合せば好都合なり。

五 大山縣營模範林

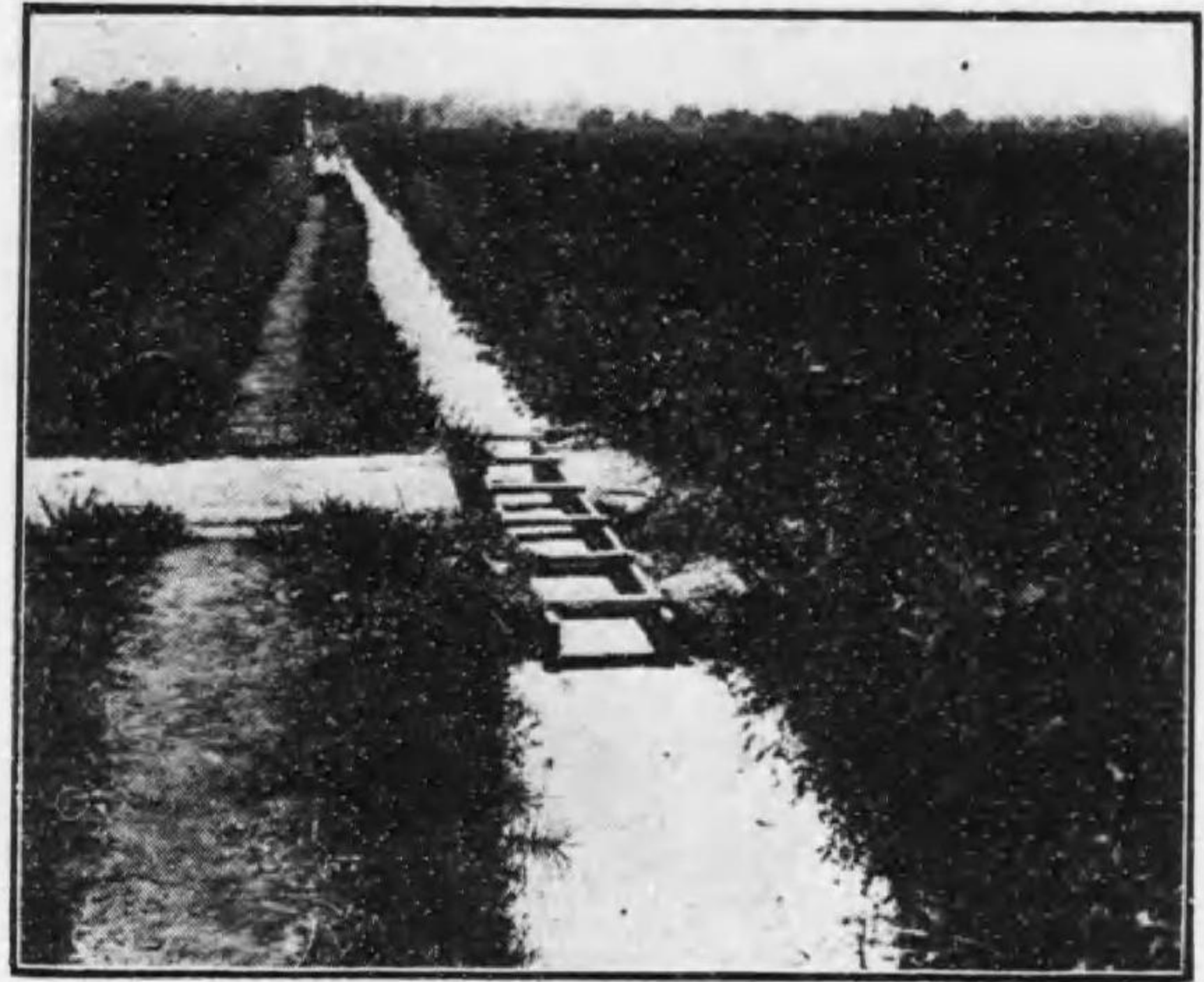
富山市を距る五里、上新川郡上瀧町の南約一里半にして同郡大山村縣有模範林に達す、該林は去る明治三十四年當時縣下林業上の進歩遅々として振は

ざるに鑑み、植林の模範を示すの目的を以て創設せられたるものにして、樹種は杉扁柏を合せ現在の數二十二萬本餘に達し、面積五十五町四段五畝歩を有し、その植栽は三十九年度迄繼續全部終了したるものにして植後の生育頗る良好なれば伐採更新の時も遠からざるべし、而して今日迄の元資は漸く金八千六百六十餘圓に過ぎざるも、伐採年限に達せば粗收入三十五萬圓以上に上るの豫定なり、その盛觀想ふべし、同地より常願寺川に沿ひて上ること二里にして立山温泉あり、附近立山杉を産し又各種の林木乏しからず。

六 船峠用水

船峠村は上新川郡東南山麓の高原地なり、寛政八年五十嵐孫作等相謀

り船倉野開拓の設計に着手し、許可を得文化七年工事に着手同十二年竣工せるものにして、其の用水は同郡下夕村大字太田薄波村より取入れ船峠村迎坂村三ツ分水迄三里二十八丁五十四間を開鑿し、經費上銀六十五匁、外に飯米約一千石を要し、遂に灌漑段別三百五十町二反八畝二十三歩の開墾を完成し、現在同用水の灌漑面積尙ほ二百九十一町を算す、本工事は實に難澁し、石工、土工、大工等殉死者十四名傷者數百名を出したるも、荆棘叢生せし舟倉の原野は一望の沃野と化し、村民爲めに徳を懐ひ文化十三年用水守護の爲め野田開に神社を建設し、明治五年船峠村大字迎坂村地内に用水並に工事擔任者の記念碑を建設して五十嵐孫作金山十次郎、金山十右衛門、石黒藤右衛門を表彰せり、用水の管理は舊



上條村耕地整理

來江肝煎これを司り、明治十年江惣代を置き、其の費現在江浚米七十六石餘を徴し、他に部落萬雜費三百九十餘圓を賦課しつゝあり。

中新川郡

一 上條村耕地整理

院線水橋驛に下車し一里餘にして中新川郡上條村に達す、同村は排水不良且つ上條用水の残水を灌漑せるを以て

用量不充分なるのみならず、區劃不整にして農耕上困難を極めたりしを以て、明治三十八年武田正一等發起し今や工事殆んど完了を見んとす、參加土地所有者百五十六名、總面積三十九町八段餘に對し八千四百九圓八十錢五厘を支出せり、爾來用水の不足を感せしことなく、地區内大字専光寺は勿論小出村、上曲淵村を通して美田良岡と化し米穀の增收亦豫想以上に上れり、附近に若狹川の改修事業あり、延長一里に涉り工事既に完了せり、共に一觀の價值あり。

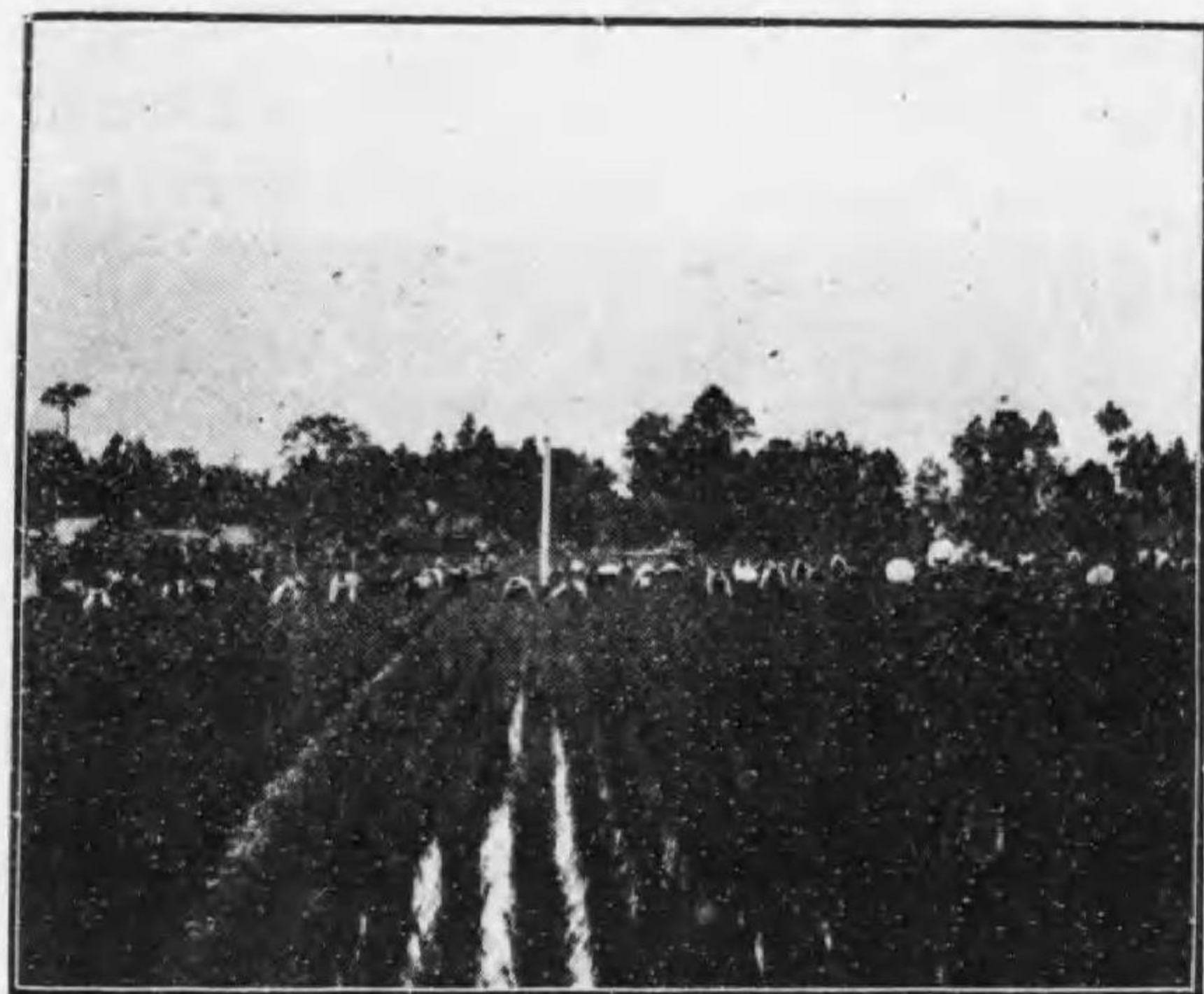
二 立山村農會

院線滑川驛より立山輕便鐵道に乗り換へ終點五百石驛に下車し行程一里にして中新川郡立山村に達す、立山村農會は全村山林經營の大任を負

ひて活動し發達せるものにして、毎年數百圓の經費を支出して山林樹苗の育成に努め、或は養蠶の改良獎勵をなし、或は魯桑實生を養成配付し、時に蠶種の無代交付をなし、時に共同稚蠶の飼育をなす等極力斯業の助長に努めつゝあり、殊に近年果樹の栽培、山葵の繁殖等これ亦全力を傾注しつゝあり、山間地方村農會中稀れに見るの事積を擧げ爲めに表彰せられたること數回に及ぶ、夏秋の頃輕裝隊を組み日本アルプスの稱ある立山連峰の跋涉を試みんとするもの同村農會を視察し、登山に便宜を得らるるも可なり。

三 寺田村青年團

立山輕便鐵道五百石驛より五町にして寺田村に達す、この地青年團あ



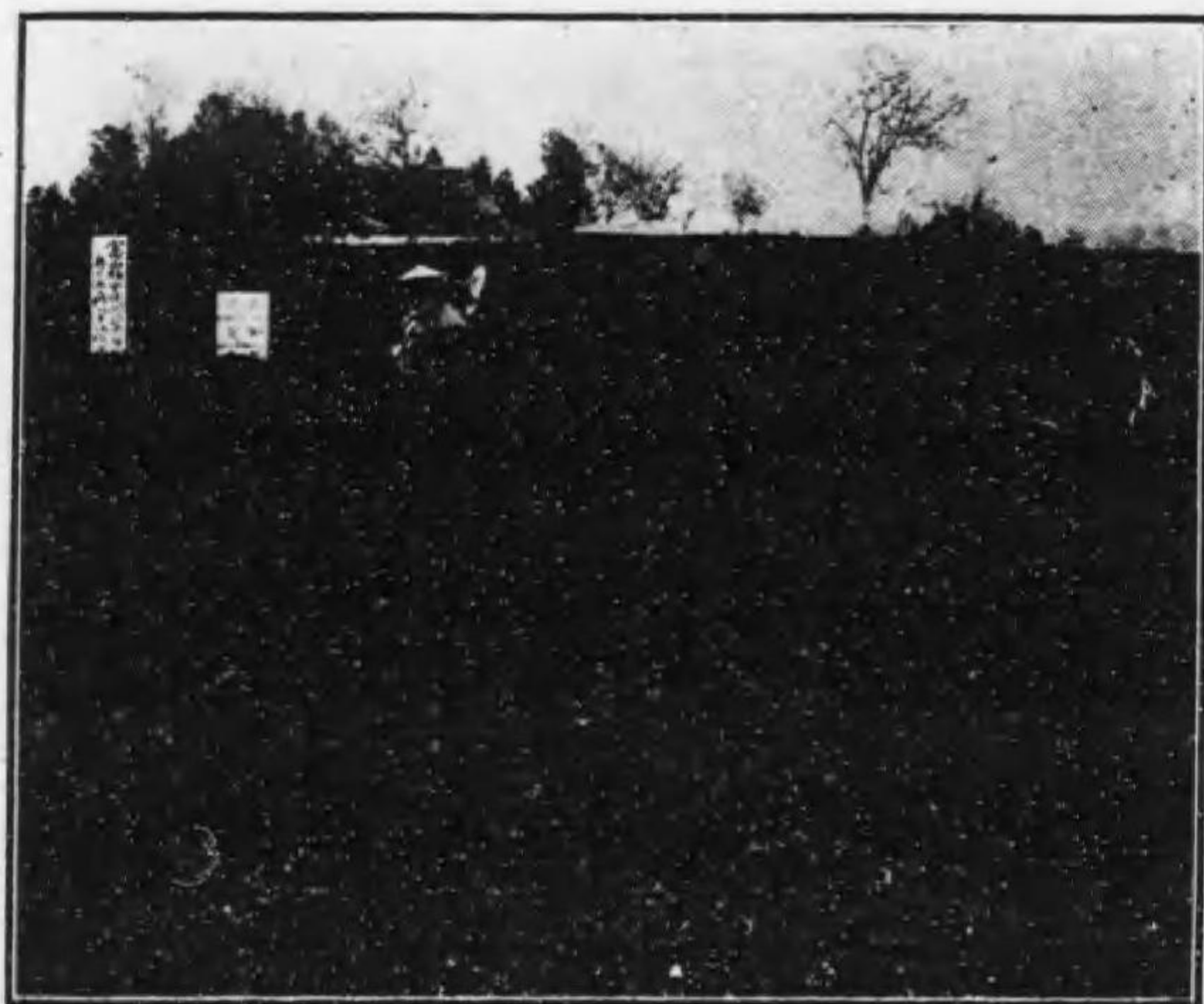
寺田村青年團の試作田

り、明治二十四年の設立にして青年の智徳養成、風紀改善等を圖り、夜學會場を新築し、團員一致努力の結果改善進歩を見るに至り、四十年本縣知事より表彰せられ金四十圓を下附せらる、目下主なる事業は補習教育、壯丁教育、溫讀會、團體旅行、追悼會、句會、慈善事業、試験地設置、規約貯金、敬老會、共同作業、視察員派遣、風紀改善、青年文庫、善行者表彰、風俗習慣改良協

定、選奨紀念事業、基本財産の造成、團員名簿、其の他指道標の設置及び村塚標の建設、試作田設置、在營兵士の慰問、害蟲驅除、揭示場設置、共同購入、衛生上の施設、消防組設置の事業を實施す、爲めに青年は勿論村内一般に不學の徒なく、舊來の惡習慣を剷除し、風紀衛生共に進歩し、勤儉貯蓄の實行は醇朴質素の風習となり産業進歩し家政整へ、其の感化は一郷を風靡するに到れり、爲めに四十四年五月小松原文部大臣より金三十五圓を下附せられ、其の成績を表彰せらる寔に故ありと云ふべし。

四 上阪農場

院線滑川驛より南方一里餘にして中新川郡東加積村上阪傳次の農場に



上阪農場の紫雲英

達す、米作の改良、苗代の改善、肥料配合の妙用、麥二毛作の改良をなし、或は堆肥の製造年額三千貫以上に達し養蠶の改良、森林の經營亦見るに値す、殊に紫雲英の栽培は一種の方法に依り栽培し、其の方法縣下に普く、里人上阪栽培法と稱し東加積村のみに於ても金肥一萬二千圓を節減し、尙七百五十石の增收を得るに進ましめ從來陶土質粘土質たりし土地は紫雲英、堆肥、厩肥施

用の結果作土著しく改善せられたり、上阪は實踐躬行の人其の家政整理の方法亦一度同場に赴き談笑を交ふるに至らば、只に緑肥栽培の秘術を知るに止まらず、地方稀有の老農にして亦篤農家たるを知るに難からず。

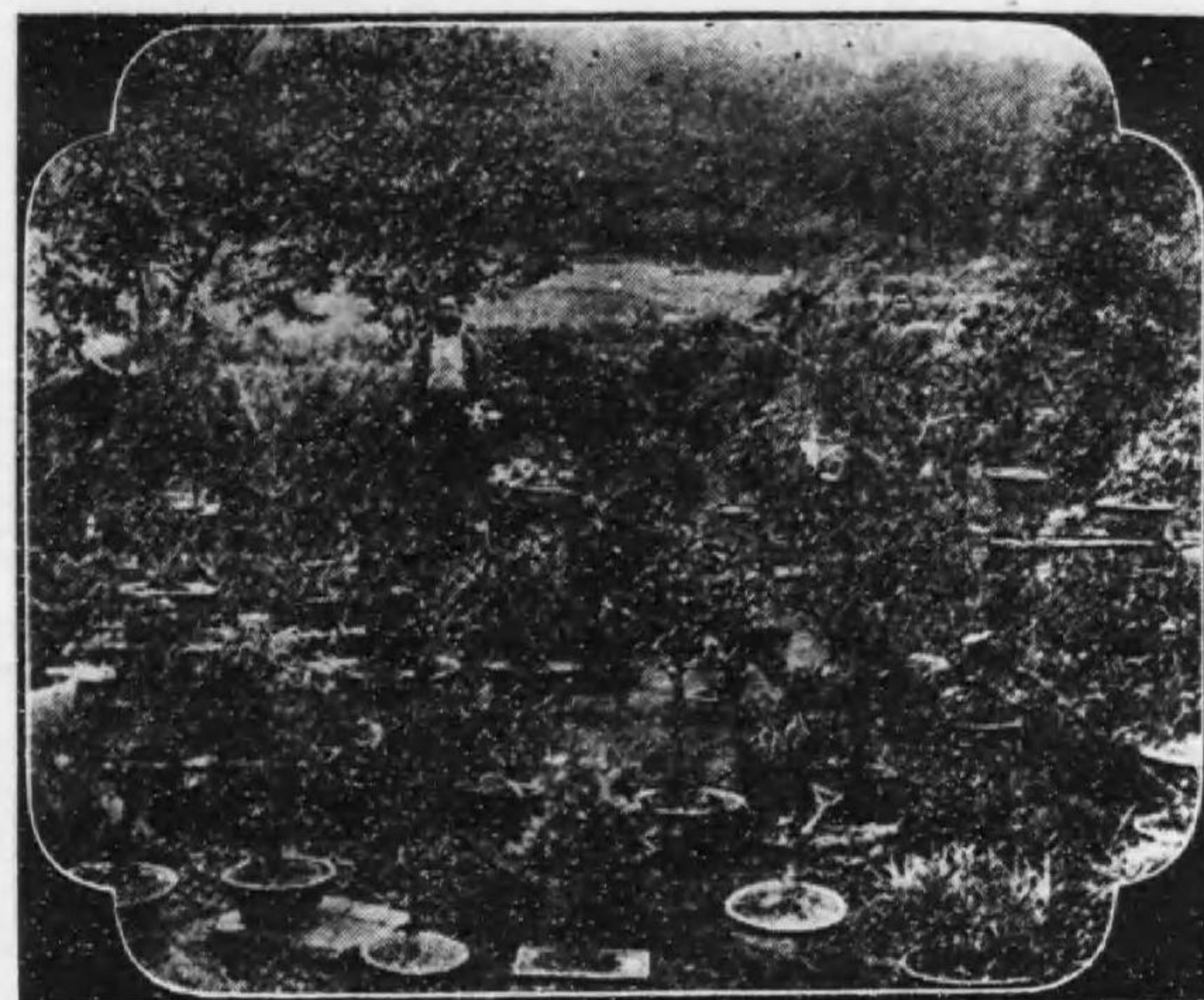
五 室山野用水

室山野用水は中新川郡東加積村にあり、文化三年能登國鹿島郡八田村作之丞并に新川郡青島村文右衛門の二人にて室山野地内に草高一千五百石の開墾を願出し、早月川上流伊折村字赤谷にて早月川を分水し水路を開鑿せり、然るに測量を誤りし爲め目的を達せず文化七年藩は大熊村の人椎谷道三に右用水改修並に開發方勢子役を命ぜられ、折戸村字荒禿より新水路を開き、谷に沿ひ石を鑿ち、里程七里餘の岩壁を掘り割り始め



室山野用水の隧道

て灌漑の利を得、嘉永元年に至り大日、千鳥、中野、下野、堀内、大森の六箇村を形成せり、灌漑段別草高二十餘石、水路は全く深山の溪谷を迂回し來れるを以て、冬季は氷塊に埋むり、一滴の水をも引く能はず、爲めに冬季中飲料水缺乏し、加ふるに緑肥の栽培を助くる雪消水を引く能はざりしかば現在八ヶ所の保護林を買収し其の防止の計畫及び用水路の改修を企圖する



伊井永代農園の盆栽

も其の効果充分ならざるは關係村民の苦痛とするところなり。

六 伊井永代農園

院線滑川驛より立山輕鐵に乗り換へ上市驛に下車し一里にして中新川郡南加積村に達す、伊井永代農園は明治二十八年この地に開園せられ、地方に於て絶對に養成し能はざるものと信せられたりし園藝作物と雖も同園卒先其の種苗の育成に努めしに成績頗る佳良な

りしかば果樹、蔬菜、種苗育成採收は勿論各種の賞翫樹苗を初め、山林樹苗に至る迄養成し地方農家に供給しつゝあり、園の南方數町にして眼目山立泉寺あり更に南方一里餘にして大岩村に達す、奇石怪巖全山を形成し、大小の瀑布其の間に懸り實に北陸唯一の避暑地たり、寺あり日石寺と云ふ、精舎清淨にして丈六の不動尊石像を安置す、附近に常樂園あり、眺望に富むの勝地たり。

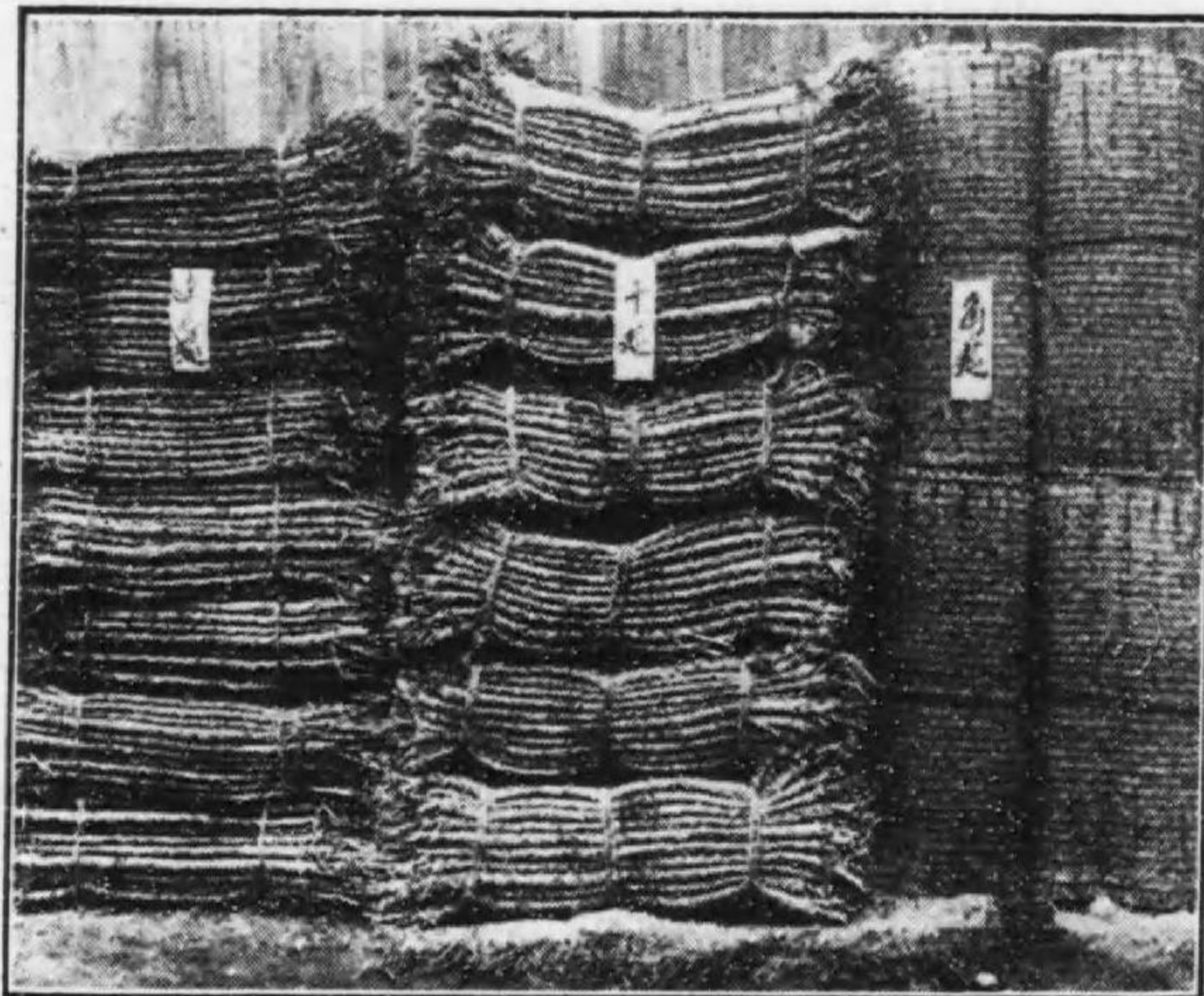
七 下條用水

院線水橋驛より十町餘にして中新川郡上條村に達す、この地偉人あり杉木彌助と云ふ、郷内下條用水は其の取入甚だ不完全なる爲め毎年田畑の損災を見るに忍びず、百方苦辛水利の考案に心力を注ぎ、終に埋樋敷



社神の其と水用條下

設の妙案を立て上市川の河底を鑿ち、長さ八十有餘間の埋樋を伏せ字郷川の水を全く引き入る、計畫を立て起工せしに、萬延元年四月全く竣工せり、爾來灌漑の利便多大にして昔日の慘狀を一掃し、溉灌段別六百七十二町一反五畝歩、水利組合法に依り管理し經費毎年一千八百十八圓餘を支出す、彌助の徳を敬慕し郷村相圖り其の靈を祀り、埋樋神社と號し六月一日を祭日となす、



蕙田利るせ束結

明治十八年時の縣令彌助生前の偉業を追賞し、又明治三十年郷村有志の發企にて彌助其の他の功勞者を表彰せんとし、埋樋神社の傍に埋樋記念の碑を建設せり、寔に地方唯一の歴史的關係ある大用水たり。

八 利田藁蕙

常願寺河畔中新川郡利田村を中心として角蕙（敷蕙）の産出頗る盛なり、明治十年の頃北海道との交通頻繁となる

や、從來農家の疊代用の角蕨は北海道魚肥乾燥用として盛に製織し、利田干蕨の名既に北海の地に高く、需要の増加と共に生産の區域亦擴大せられ、大正元年の如きは全部を通して干蕨九萬圓角蕨一萬五千圓、蕨吠二萬八千圓、米卷蕨七千五百圓に上り、各種を通じて北海道に輸出し、吠は新潟、石川其他各地の人造肥料會社へ供給す、明治三十九年蕨蕨商相集まり同業組合を設立して製品検査の統一を期し、且つ製織上の注意をなしつゝあり、其の組合事務所は院線水橋驛東水橋町にあり。

九 大崎野用水

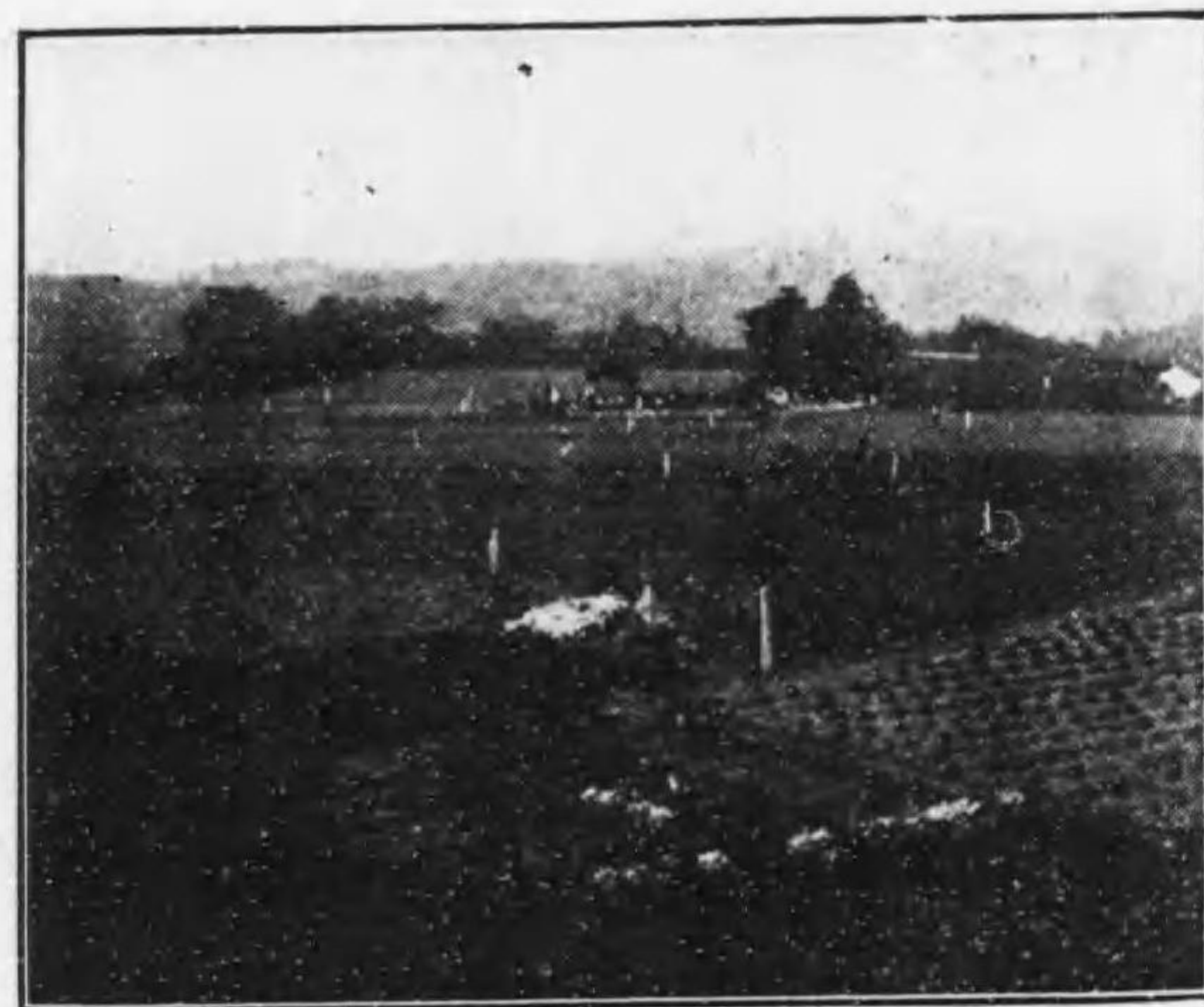
慶長年間中新川郡東加積村大崎野村地内開墾の爲め、大浦村字増減より早月川の水を引かんとして開鑿せる用水路にして、其の後安永年間に



大崎野用水

大崎野用水取入口

至り小鹿野、春木、田林等の原野開拓に伴ひ用水口を取擴めたるものにして、灌漑反別百六十五町餘に及ぶ、取入口は斷崖絶壁の險阻に當る墜道を掘りて漸く引水す、冬季雪崩の爲め取入口を閉塞して水涸を來すを以てこれが排除に毎年三百圓以上の費用を要せしも明治二十七年江總代石坂嘉一の主唱にて土砂防止工事を施せしかば用水費著しく減少し、冬季と雖も引水自由となり、



天神山樹苗圃

随つて紫雲英の栽培を助くるの利を得たり、毎年の工費は舊來より玄米四石七斗五升を程度とし、經常費は大凡四百圓を要すと云ふ。

下新川郡

一 天神山樹苗圃

古器物發掘以來其の名を知られたる天神山は院線魚津驛より一里、四季の眺望絶佳の地にあり、附近に下新川郡

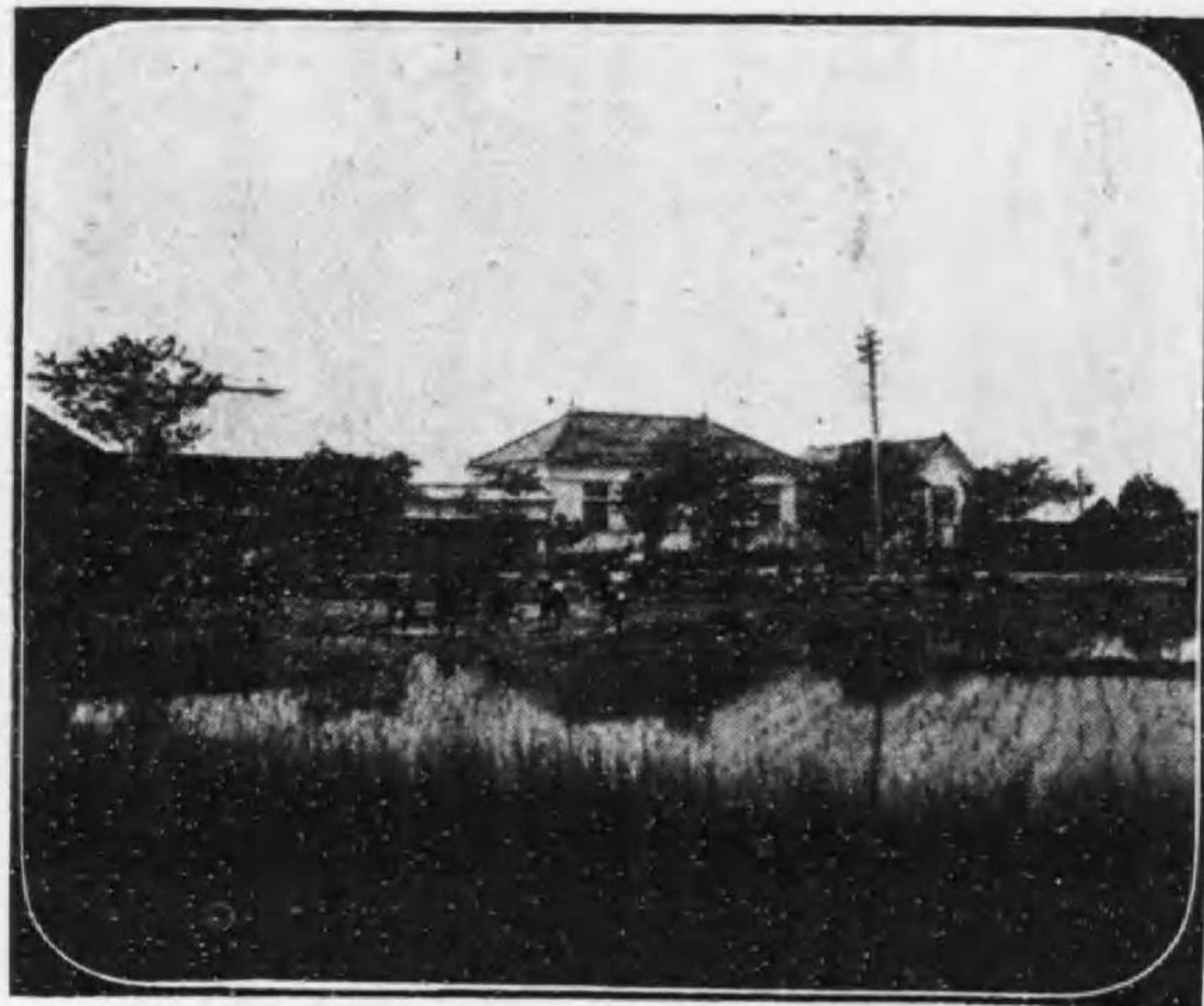
農會直營の樹苗圃あり、明治三十六年より向ふ二十七箇年の繼續事業にして郡内山地所有者に完全適確なる樹苗分配の計畫を立て、爾來孜孜としてこれが經營に努めたる結果、今や殖林思想愈々盛となり毎年樹苗の需要漸次増加するの趨勢なるを以て、愈々樹苗圃を擴大し昨年に於ける其の面積約五町歩に及ぶ、養成の樹種は杉、松、扁柏、落葉松、櫟及び檜にして、尙ほ他に山崎村、松倉村、上野方村、片貝谷村に分苗圃あり、昨年に於ける床替數は十九萬本に及ぶ、圃場克く整ひ育成頗る佳良なるを見る。

二 下野方村の梨

院線下り列車に身を投じ魚津驛に着せんとする五分前、沿道の柵下

下野方村の梨

累々たる梨果を見る、これ下新川郡下野方村となす、大字友道村を中心として古來梨樹の栽培盛んとなり、野方梨の名遠近に知らる、同村に木下某あり、明治十五年石川縣より來りて梨樹栽培を初めたるに成績優良なりしかば、漸次栽培者の増加と共に面積の増加を致せり、土質は有機質に富める砂質壤土にして肥沃なり、一段歩七十本を度とし整枝は柵造仕立たり、種類は早生六、かんの、卵、特産寶生寺、谷わたり、こんべと、じんた、世界一、大摩丸、明月、明月くすし等にして剪定、整枝は勿論、摘果、袋掛丁寧を極む、野方梨は實に縣下に於ける柵造整枝果樹の嚆矢にして其の變遷發達の經路亦参考に資するもの少なしとせず、魚津町に下新川郡農會あり、視察調査上利便少なからず。



郡立農業學校

郡立農學校と生徒の實習

三 郡立農業學校

院線三日市驛より八町餘にして下新川郡立農學校に達す、明治四十二年九月 東宮殿下行啓紀念の事業として創立せる本縣唯一の乙種農業學校なり。同校は 殿下行啓の時地方特産黒部西瓜を栽培し、献納せしに御嘉納遊され爾來年々御買上の光榮を有す、校舎百十五坪、屋内體操場四十坪、寄宿舎六十坪、校地總坪數十四坪、大正元年の生

徒出席歩合九六、三七を示し、在籍生徒百十五名、大正元年第一回の卒業生二十六名を出せり、農園は水田二段五畝歩、畑一段五畝歩、果樹園三畝歩、桑園三畝歩あり、郡内有志中より評議員十二名を選抜し本校發展の機關たらしむ、經費毎年三千七百餘圓を支出し、目下教諭三人、助教諭二人、囑托教師三人を置けり。

四 長島家々庭果樹園

院線入善驛より十五町にして下新川郡柵山村に達す、同村の豪農長島家は地方稀有の大地主にして又農界の篤志家たり、即ち同地方は米作を主として若干の黒部西瓜の生産を見るに過ぎず、長島家先代の主人武右衛門夙にこれを遺憾とし、村民に果樹の栽培を奨励すると同時に自から



長島家々庭果樹園

長島家々庭果樹園の整枝果樹

其の栽植をなせり、家庭果樹園即ちこれなり、園は本館前庭に沿ひ新設道路に面せるものあり、本館北方に面せるものあり、前者は整枝果樹園と稱し、後者は普通果樹園と稱するを適當ならんか、整枝園は明治四十四年の開園にして總面積二千餘歩あり、中央に別邸を建設す、普通果樹園は明治三十八年の創設にして其の面積千八百歩、苹果を主とし凡て盃狀仕立となす、共に施

黒部山中の密林



下新川郡黒部流域

肥中耕行き届き、整枝剪定の妙技至れるを見る、寔に地方唯一の家庭果樹園たり。

五 黒部山中の密林

北陸の巨川黒部川の上流は實に

立山連峯の間に渉る人跡未到の深山なり、この地古來黒部杉を産し天下に名あり、院線三日市驛に下車し馬車にて二里二十六町愛本に至れば奇橋愛本橋あり、一笠青鞋黒部の流域を上ること二里にして黒薙温泉に達す、路側の山谷杉、樺等茂生し、三郎左衛門平の檜造林地、稲谷の古代天然林、溜杉の杉林皆な有名なり、支流鐘釣川の上流を辿れば笹平、猫又平等の杉造林地あり、附近鐘釣温泉あり、更に進めば祖母谷温泉あり、上流未だ萬古の白雪を踏破してこの密林を探れるものなし、山中營これ黒部の秘密境あるのみ、古代未知の密林あるのみ。

六 大家庄村耕地整理

院線入善驛より一里にして下新川郡大家庄村に達す、大字舟川新村は

大家庄村耕地整理

土質瘠薄、地形屈曲凹凸甚しく、道路溝渠の設備完からず、區劃狹小不整にして農業上不利多大なるのみならず、五十餘戸の家屋並に附屬建物は各地に散在し、宅地の樹木蔭をなし、耕地を障害すること亦多大なりしかば、明治三十一年富山縣農會模範耕地整理地區に指定せられ、地主相會し、耕地整理を施行するに決し、明治三十一年工を起し、地區内中央部に南北に通ずる道路を新設し、其の兩側に沿ひて全村の家屋を移轉して交通の便を計り、同時に區劃を正整し迂曲錯綜せる道路溝渠を改築し、星散せる各自の所有地を交換分合して大に耕地の利用を増進せり、縣下多くの地區中其の設計一種の異彩あり、今や家居櫛比し宛然田園都市の觀あるに至れり。



下新川郡蕨商同業組合の検査

七 新川蕨

下新川郡一圓に生産する蕨は新川蕨の名の下に各地に供給せられ盛況寔に一觀の價値あり、新川蕨は安政年間郡内東山見村地方農家の製織せしに始まり、爾來農家の敷物として多少の生産をなしつゝありしに、俄然北海道との交通盛んとなり、老幼婦女子擧げて製蕨に従事し、重要なる副産物たるに至れり、然るに製品の粗雑不統一の弊

甚しく、これを整正ならしめんとして蕒蕒商同業組合の設立を見るに至り、蕒蕒、蕒繩、叭に對して一々製品の検査をなし、荷造統一を實行せしに舊來の面目を一新せり、同業組合の調査せる處によれば各種の蕒二十一萬束、叭五萬束、蕒繩六萬五千束に達し、其の金額二十三萬圓、年次盛況を致しつゝあり。

八 前澤村の稻種

院線三日市驛より東南一里にして下新川郡前澤村に達す、地質は赤埴土にして四圍開濶通風陽光の利充分にして稻の發育良好、稻種栽培地として好適の地なり、同村の老農松井甚作は明治十五年稻種採收の有利を説き、これを村人に勧めしに漸次採收高を増加し、年次交換の盛況を見る

に至り、明治二十一年有志等協議し換種社なるものを設け更に同四十二年布施山開稻種販賣組合を設立し、益々採收法の改良を計り、販路の擴張を促せしに、今や毎年四百石内外を産出販賣し、主として縣内の需要に應じ信用甚だ高し、稻種前澤の如きは實に同村の原産にして、其の如何に稻種育成に努力せるかを知るに難からず。

九 黒部西瓜

院線三日市驛附近下新川郡荻生村を中心として古來西瓜を産し、荻生西瓜と稱して有名なり、種類はアイスクリーム、スネーキの二種にして爾來栽培の改良發達を計り、種類の地方風土に適合するに至り、稻の休閑作として何れの農家と雖も栽培せざるものなく、年次栽培面積の擴張

を見産額増大を致すに至りて弊風亦重ねて來り、遂に明治四十四年下新



黒部西瓜の検査證書

川郡黒部西瓜生産業者組合を組織し、事務所を院線魚津驛下新川郡農會に置き、生産品の検査統一を企圖せし以來、改良の効果大に舉り、今や地方の需要を充し、尙ほ大阪、京都、東京地方に輸出し、近時對岸浦港、北海道地方に輸

出して利益あり、毎年 貴尊御料の光榮を賜ふ、實に本縣園藝界唯一の

特産物たり。

一〇 無限責任上原信用組合

院線入善驛を距ること十三町にして下新川郡上原村に達す、元小學校教師森榮次郎明治三十三年郷土誌編纂に當り同村管内の地積五百二十七町は全く他町村民の所有に歸し餘す處十分の四に過ぎざるのみならず、村民家庭の圓滿を缺き、遊墮放從に流れ止まる處を知らざるを憂へ、村内五ヶ處の寺院に依願し、僧侶が説教後の席を籍り、熱心産業組合の必要を説き、村勢挽回の急を叫びたること幾十回、遂に村民の覺醒を見るに至り明治三十六年六月本組合を設立せり、爾來組合の經營に際り、或は自ら貯金通帳を製作して與へ、或は南北に長き村内を巡回して以て組

合の必要を説く等日夜苦心すること筆舌の竭す能はざるものあり、果せるかな事績大に擧り今や村民浮華の念を去り、一意専心業務に熱心し貯蓄心に富みたるは勿論、金利の低減を見一般に愛郷心を高め、村内の土地約四十町を買ひ戻すに至れり、産業組合中央會は明治四十二年第一次の旌表をなせるもの寔に故ありと云ふべし。

婦 負 郡

一 卯花戰役紀念森林

婦負郡八尾町の南十數町にして日露戰役紀念たる縣有森林あり、去る明治三十九年度より公私の荒廢せる林野を利用し、地上權を設定し年々



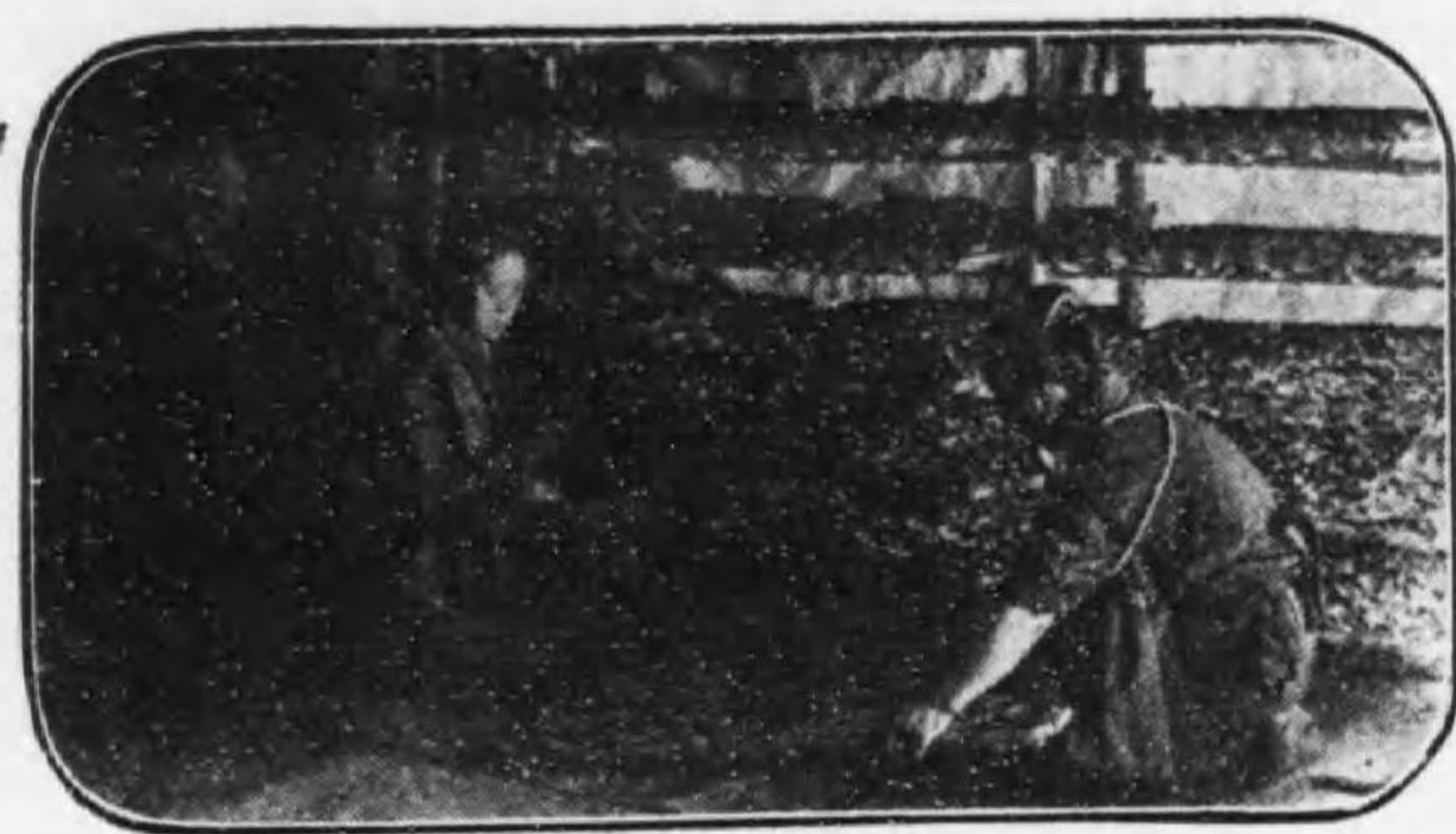
卯花戰役紀念森林の植栽

造林及び苗圃の施設に努めたる結果漸次完成の域に達し現今全面積三百余町歩は主として杉、扁柏を植栽し、成績極めて良好なり、而して當森林以外縣下氷見郡八代村及び上新川郡船峯村に同紀念森林あり、合して一千町歩、二十六箇年の繼續事業にして既に二百町餘の植栽を終れり、本事業費總額金拾貳萬貳千餘圓なり。

二 牛ヶ首用水

牛ヶ首用水は其の水源を神通川に求め其の流水の九分を占む、下流は射水郡に及び灌漑十六

ケ町村、草高四萬石餘に垂んとするを以て一名四萬石用水と稱す、其の用水量の豊富なる其の規模の大なる寔に加能越三國に比すべきものなしといふ、即ち往古藩主獎勵の許に寛永九年下村長左衛門等の出願開鑿せるものにして、明治三十六年水利組合に於て管理し、事務所を婦負郡百塚村に置き十六ヶ町村長の互選に依り、主任一名助任五名、用水監督員五名、下使江廻八十一名、書記一名を設く、經費毎年壹萬參千圓を支出す、町村民牛ヶ首用水の安全を祈らん爲め寶永三年金澤藩に勸請し、大字百塚八ヶ山に社殿を建設し其の後元録年間に現在の用水組合事務所附近に移し、八月十六日は寛永十年同用水の開鑿起工日に當るを以て、これを祭日となし餘興として放樂角力を舉行し、神靈を慰めつゝあり、又以



八尾町の蠶業

八尾町の蠶業

て其の一斑を知るに難からず。

三 八尾町の蠶業

富山市より西南四里にして婦負郡八尾町に達す、この地は第一百二代東山天皇の御代に於て既に蠶種を製造せるものあり、寶曆年間に至りて製造の數最も多數に上り、山陽、東海、北陸の三道に得意先きを有せり、爾來幾多の變遷發達を経て蠶種の製造は勿論養蠶の業地方に普及し、製糸の業も亦甚だ盛大を見るに至り、其の盛況縣下第一たり、この地特種の俚謠あり、小



吳羽山の桃林

原節と云ふ、毎年二百十日に風盆と稱し、壯丁少女異様の扮装をなして三々伍々隊を組み、小原節を歌ひ連れて市中を徜徉す、地方何れの部落に至るも草間に小原節を聞く又以て農村風習上の一奇觀なり。

四 吳羽山の果樹

富山市の西方十數町にして南北に横はる丘陵を吳羽山と云ふ、所謂中越の平野を東西に横斷せる山脈の餘端なり、北には北代の梅林あり、東には櫻谷の桃林あり、脚下に苹果累々たるあり、

山上亦處々に苹果の栽植を試むるもの尠なからず、試みに筈を曳きて丘上に登らんか脚下に富山市街神江の長流を帶せるあり、仰けば立山連峯の巍峨たる峭壁一大長城をなせるを觀るべく、更に眼を轉じて北方を顧れば富山灣は殆んど眼前に展開せられ、近港遠帆總て一眸の下に萃まり、遠く能登半島を雲波縹緲の間に望むべく、春季東麓一帶桃花紅に梨花白く人目を眩せしむ、山下東吳羽村に模範果樹園あり、各地の當事者訪ふもの絶ゆることなし。

五 櫻谷行啓記念樹苗圃

院線富山驛を距る三町、婦負郡櫻谷村に縣營樹苗圃あり、明治四十二年秋 聖上陛下の未だ東宮にあらせらるゝとき本縣に行啓せられたるを

紀念し、且つ縣下林業の振興に伴ふ樹苗要求の潤澤を圖らんとして企劃せられたるものにして、總坪數一萬三千歩、爾來年々縣下公共團體及び箇人に對し樹苗の交付をなしその數頗る多額に上れり、大正二年度に於るけ播種量は杉一石二斗五升、松七斗五升、黒松一升、赤松一升、檉二升、櫟八石五斗にして二年生の床替せしもの杉百四十八萬九千本、檜六十七萬五千本、黒松八千五百本、櫟七萬本、栗三千本にして、下新川郡西布施村、東礪波郡井波町、西礪波郡子撫村にこの種苗圃あり、共に俱に成績頗る佳良なり。

六 吳羽地方の茶業

富山市の西方十餘町にして吳羽山あり、地方一帯の茶業古來盛にして、



吳羽地方の茶摘

婦負郡長岡村の如きは宛然本縣茶業の中心となり、栽培面積三百二十町に及び、傳習所の設置をなし、茶業巡回教師を招き實地栽培の指導は勿論、新に明治四十四年式製茶機を購入しこれを傳習所に設置試用する等、長岡村は勿論附近池田村、西吳羽村等に於ても、機械製茶の方法を實行し累年産額の増大を致し、本縣製茶の産額十萬圓中五萬參千餘圓を生産し、品質亦尤も上等にして名聲既に顯はる。

七 宮川村耕地整理



宮川村耕地地整理排水

富山市の西南に走れる八尾街道を行くこと二里半にして婦負郡宮川村あり、大字田屋村、中島村、廣田村、濱村子一帯の地は崎嶇不整甚しく、排水の不良は全地を濕田と化し、地質薄瘠、肥料其の效を奏せず、加ふるに地區錯綜し、農耕漸次振はざるを慨し、池内利重、吉田彌作、舟崎良英等耕地整理の必要を認め、各村に耕地整理組合を設立し、明治四十一年來相前後して工

事に着手し、銳意土地の整理に力を注ぎ、或は暗渠を設置し或は用水を修め、河川を改修し以て排水の便を採り灌漑の利を計り、今やその大部分の工事を了し、區劃整然些の冗地を剩さゝるに至りたり、而して大字四ヶ村に涉り整理増加豫定面積十餘町に達し、獨り米穀の收量のみならず、其の他各方面に於ける増益少なからざるに至れり。

射水郡

一 横田村の自治

院線高岡驛より高岡市を横斷して郊外に出づれば射水郡横田村あり、紀元二千二百五十八年慶長三年以前の開村にして、當時村領千七百四十



横田村共同倉庫の開庫

三石あり、村民自治心に富み今や全村耕地整理の完成を見んとし、産業組合の事績擧がり、共同倉庫あり、地主會あり、自治會あり、村農會の事績亦見るべきものあり、殊に明治四十三年村是調査を實行し將來村治の大計劃を立て、自治、教育、衛生、産業、宗教等各般の部に最も具體的計畫を樹て、着々實行を期しつつあり、爲めに青年團、農會等の各種機關は勿論、村治上模範たる

の故を以て表彰せられたること數回に及び、殊に四十五年内務大臣より村治の發達見るべきものありとなし金八百圓を下付せられたり、蓋し同村は前村長堀二作及び現村長堀豊等中心となり、村民の自治心を發輝せしめたるものにして、村治の將來亦決して想像に難からず、寔に地方農村中稀なる良村たり。

二 黒河村の果樹

黒河村は富山市の西方二里二十六町にあり又院線小杉驛より二十五町にして達す、北方に面して傾斜せる西方吳羽山脈の西復にして、土質は稍々粘質を帶ぶる壤土なり、果樹は桃を主とし他に苹果、柿、梨等にして栽培の技術進歩し、年々適確なる發達を遂げつつあり、此の地黒河果

物共同販賣組合あり、今や果實の産額二萬餘圓組合に於ける競争賣買の盛況亦見るに値す、同村に共同倉庫あり、庭木養成せるあり、有限責任黒河信用購買販賣組合あり、地方稀に見る進取的農村たり。

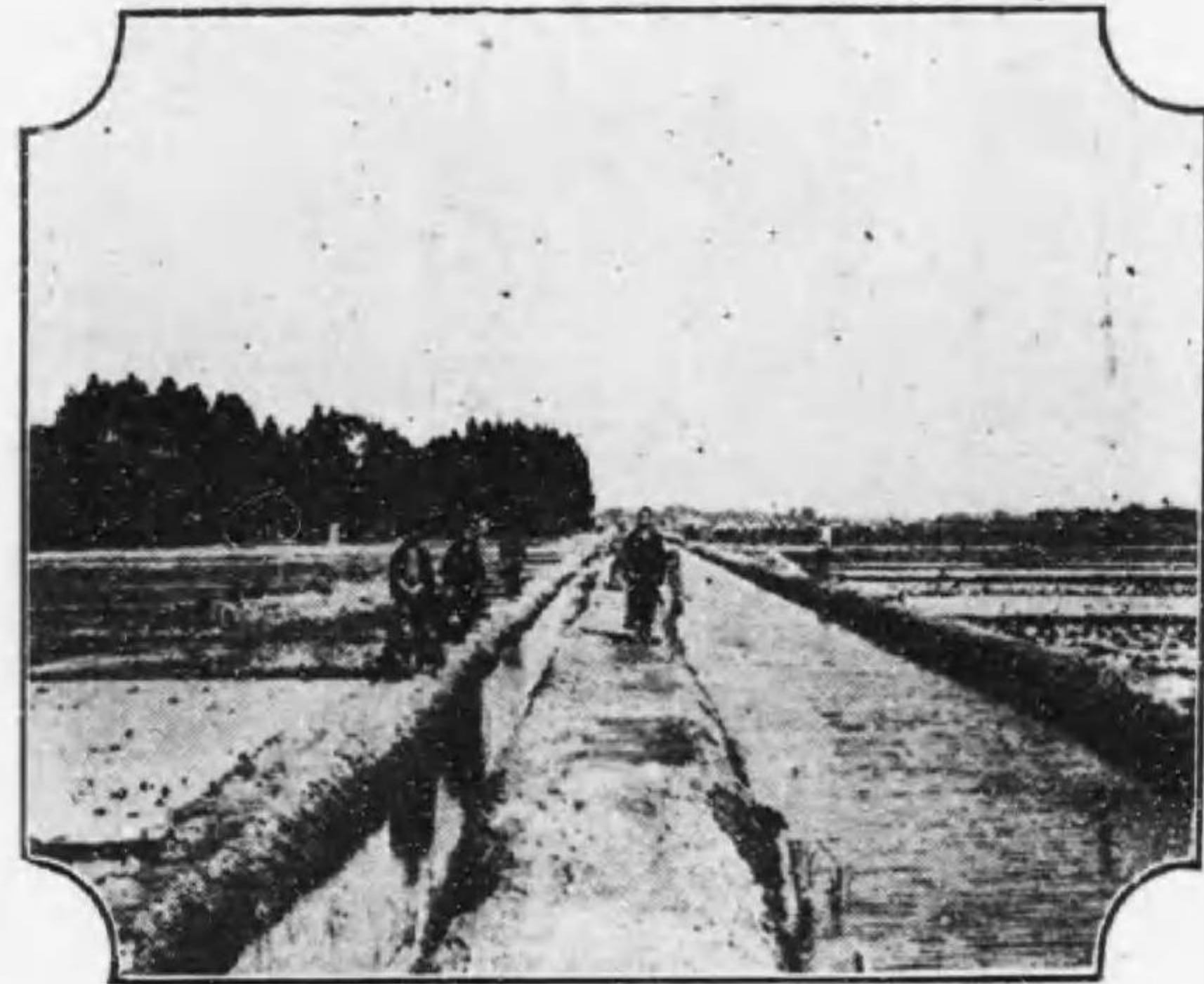
江尻家々庭果樹園

院線小杉驛より一里にして射水郡片口村に達す、この地舊家あり、江尻家と云ふ、江尻家は累代農業を營み地方有数の大地主なり、當代の主人豊太郎は明治四十二年の初秋時の東宮殿下北陸の僻地に御行啓あり、この千歳一遇の盛事を紀念せんとし家庭果樹園を創設せしに始まり、爾後同園を中心として自己小作人を指導し、一は品性の陶冶に努めしめ、一は農事園藝の實地的指導を試みんとせり、果せるかな其の効果意外に擧



江尻家々庭果樹園と温室

がり、今や一村果樹に對する觀念を高め梨、柿等主として附近一帯に生産するに至れり、果樹園は本邸平造の庭園を過ぎ園の一角に出づれば日本式柵作りの梨あり、ギューヨー式整枝の葡萄あり、苹果の三菱式整枝あり、スタンダート式整枝あり、各種嶄新なる整枝剪定は地方果樹園に見るを得べからず、花壇は大體に於て伊太利式を應用し、温室は園の本邸に接して建立す、



中曾根村耕地整理地理區

室内の設備克く實地經驗を應用し、學理に適せるを見る。

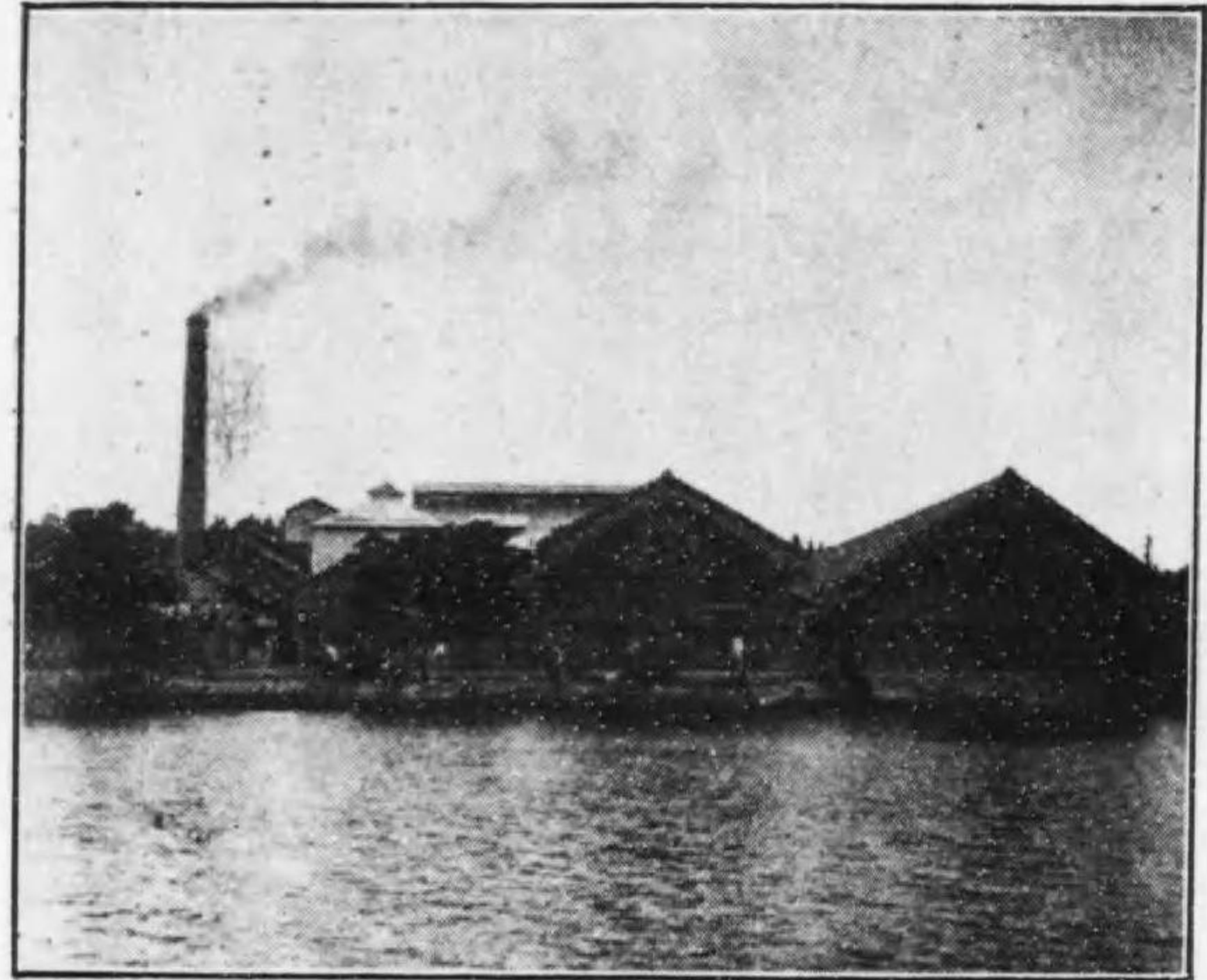
四 中曾根村耕地整理

射水郡新湊町の西に接して牧野村大字中曾根村あり、村内を灌溉する西神樂川は年次氾濫相繼ぎ排水澁滞して濕田となり、村勢頗る振はざるに至りたれば岩脇孫八等大にこれを憂へ耕地整理の必要を感じ、明治四十二年組合の發起をなし經費二萬餘圓を豫算し工事

に着手し、西神樂川の改修大排水路の新設を企畫し、低利資金を借入れ爾來着々工事進捗し完成の期漸く迫れり、今や排水灌溉の便その當を得、地質一變し、紫雲英は栽培せられ、肥料の效果著しく、穀物の收量従前に比し激増を見るに至れり。

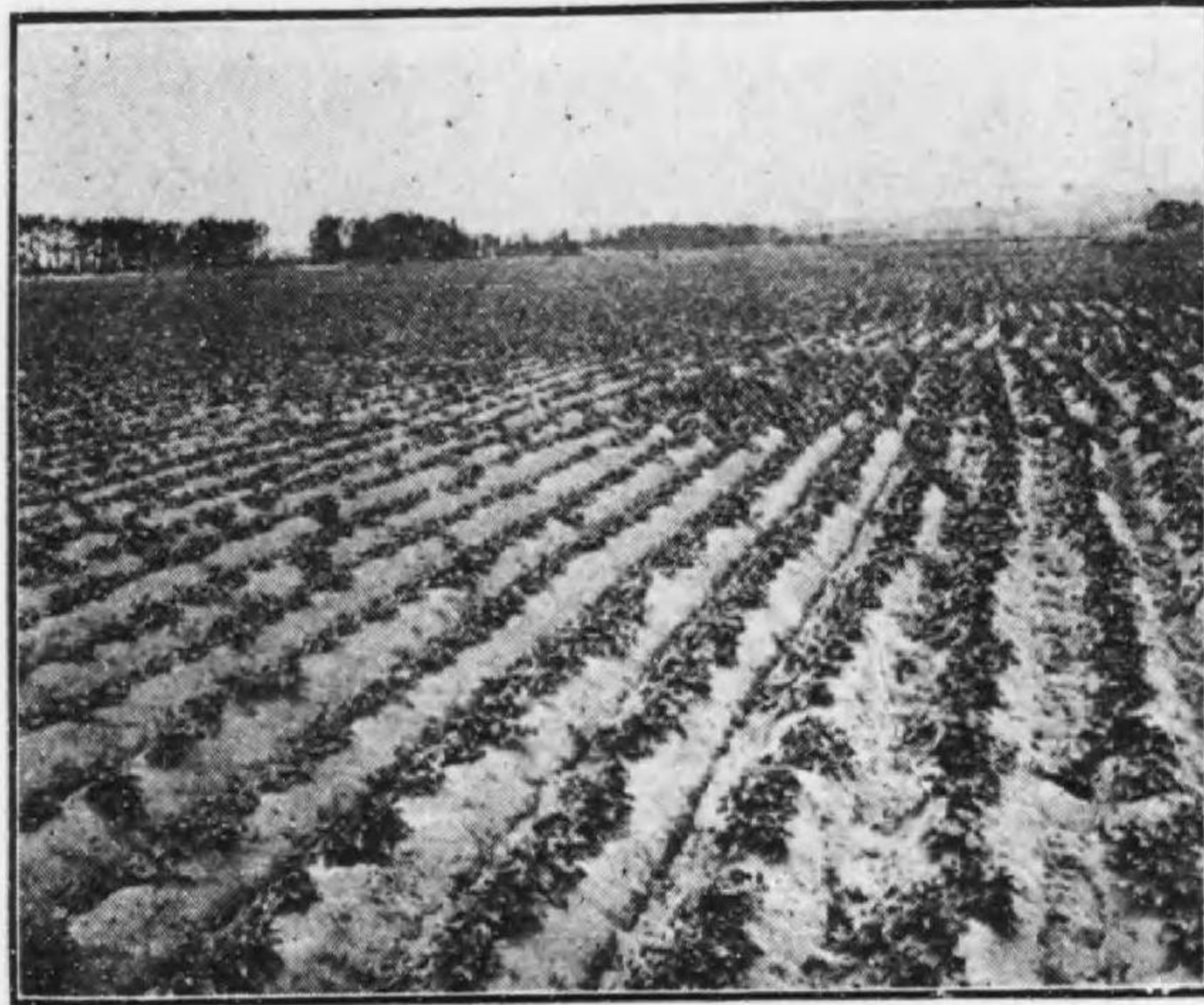
五 北陸人造肥料株式會社

裏日本の商港伏木に北陸人造肥料株式會社あり、富山縣下の農家を主なる株主として設立せるものにして、一は毎年縣外より輸入する數百萬圓の肥料を防ぎ、一面更に低廉にして且つ尤も土地に適應せる經濟的肥料を製造し、一般農家に供給せんとするにあり、位置は伏木港射水川の西岸にあり、運輸は海陸兼備の要衝に屬し、河に海に將た鐵路に其の



北陸人造肥料株式會社全景

運ぶに任すべき至極利便の地なり、年中百三十馬力の蒸気動力を工場内に用ゐ、肥料部と硫酸部との二區に分ち、各々最新式の器械を装置し、敷地五千餘坪、建物二千五百坪を有し、人造肥料の製造上尤も遺憾なき設備をなせり、明治四十二年十月二日時の 皇太子殿下北陸地方行啓に際り、當會社へ侍從を差遣せられ、有難き御言葉を傳へられたり、爾來益々社業の隆盛に努力せ



島尾海岸の氷見甘藷畑

るを見る。

氷見郡

一 氷見甘藷

北陸甘藷栽培の元祖氷見甘藷は中越線島尾驛附近太田海岸を本場となす、文政の頃藪田村の住人要助等字見田窪に移住し、氷見町の船問屋江戸屋に依頼し廻船の便を以て薩摩より甘藷を取寄せたるに初まり、爾來或は藩主の奨

勵を得、或は幾村の飢民を救済し、幾多の變遷を経て今日の盛大を致せり、即ち氷見甘藷は其の生産額に於て其の栽培術の進歩せる點に於て他に超越せるものあり、甘藷苗の移出亦一百万本に達す、太田海岸に中越鐵道會社經營の島尾遊園地あり、夏季海水浴客の各自一籠を携へ歸路に就くものこれ氷見甘藷の速成品なり。

二 論田箕

院線高岡驛より中越線に乗り換へ氷見驛に下車し二里餘にして氷見郡熊無村に達す、この地論田箕の製出あり、舊藩時代より既に相當の保護を加へられ即ち同村民の外製造を禁せられたるのみならず、其の原料たる藤は加越能三州の山地に於て其の採收勝手たるを許され、箕を以て貢



論田箕製作の實況

租に代へ藤皮の揉みたるものは御鷹匠の御用に供したりと云ふ、爾來農家の副産業として男子これを製作し、種類は大、中、小、丸皮、半皮、長箕、短箕等あり、一箇年約七萬乃至八萬を製作し、自ら行商し又は氷見商人によりて各地に行商販賣せらる、又有限責任論田熊無信用販賣購買組合を組織し一方共同製作を奨励して製作品の統一を図り、共同販賣の利益を得つゝあり。



開墾せらる土谷農場

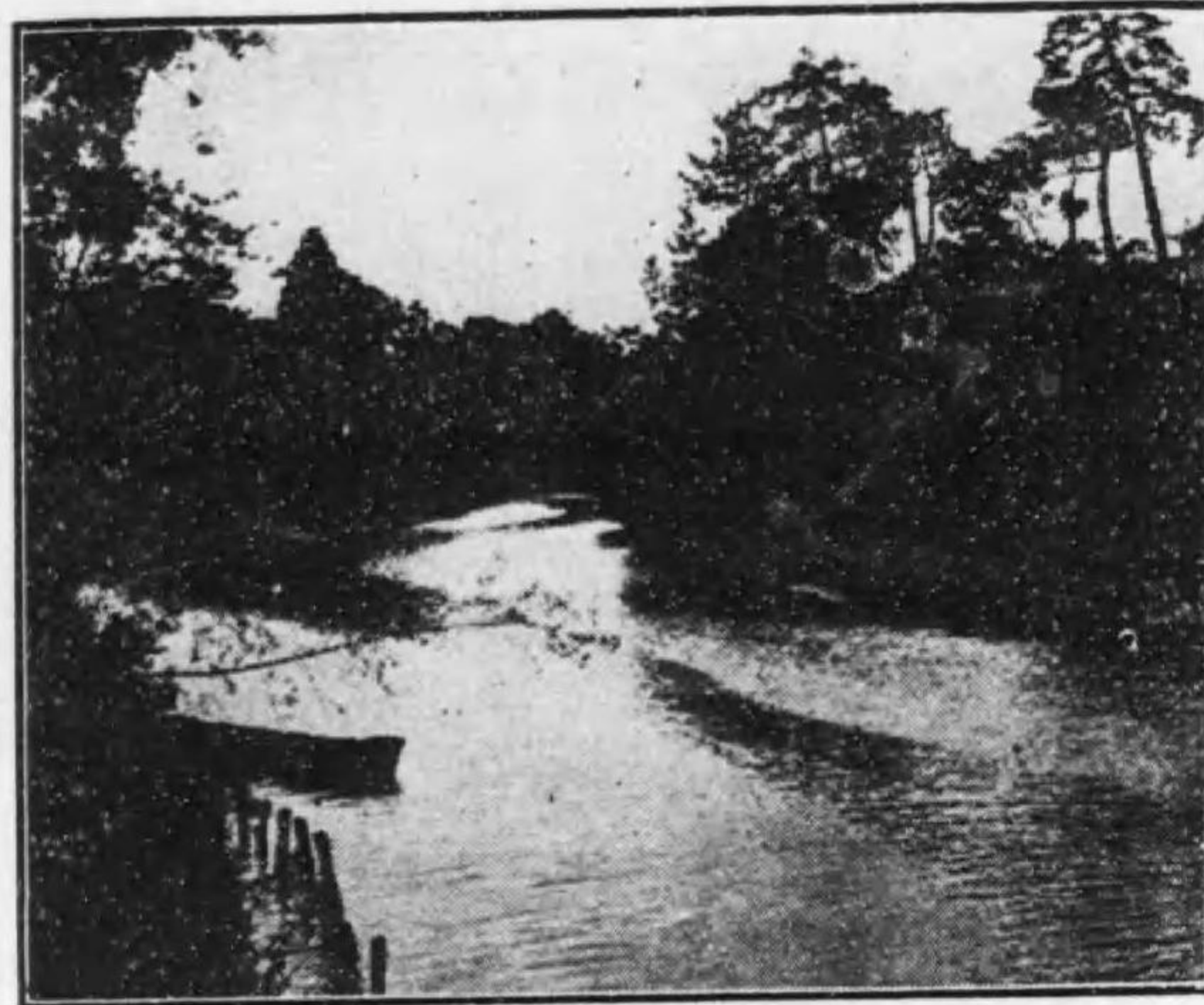
三 土谷農場

中越鐵道氷見驛に下車し朝日山麓を辿りて行くこと一里三十町にして土谷農場に達す、場主土谷要次郎は元同縣藪田村の産なり、弱冠にして單身現住地に走り、荆棘繁臻の地を拓て爰に居を定む、固より資産あるにあらず其の苦心詢に察するに餘りあり、土谷は先づ不毛の地を墾して畑となし、衣食の料を得れば其の一半を割きて更に田圃

の開墾に投じ、逐年自己の膂力を竭し、今や嵒岨たる丘阜を開き溜池七ヶ所水田及び畑地の所有少なからず、而して其の開墾溜池の築造及び水脈坑開鑿の如きは其の妙技他人の模倣すべからず、諸般農作物の耕稼收穫亦非凡の手腕を有し、熱心を以て農事の改良に努め地方農民の薰化せる事蹟大なるものあり、東宮行啓の際御旅館に召出されて拜謁の光榮を荷ひたる宜なりと云ふべし。

四 氷見壘表

氷見郡一圓の農家は古來蘭草の栽培をなし農閑各種の蘭蕙を製造しつゝあり、就中氷見表の名四方に高まる、氷見表は壘表九寸莫莖を稱するものにして全郡到る處に製造せられつゝありしが、明治三十五年蘭蕙組



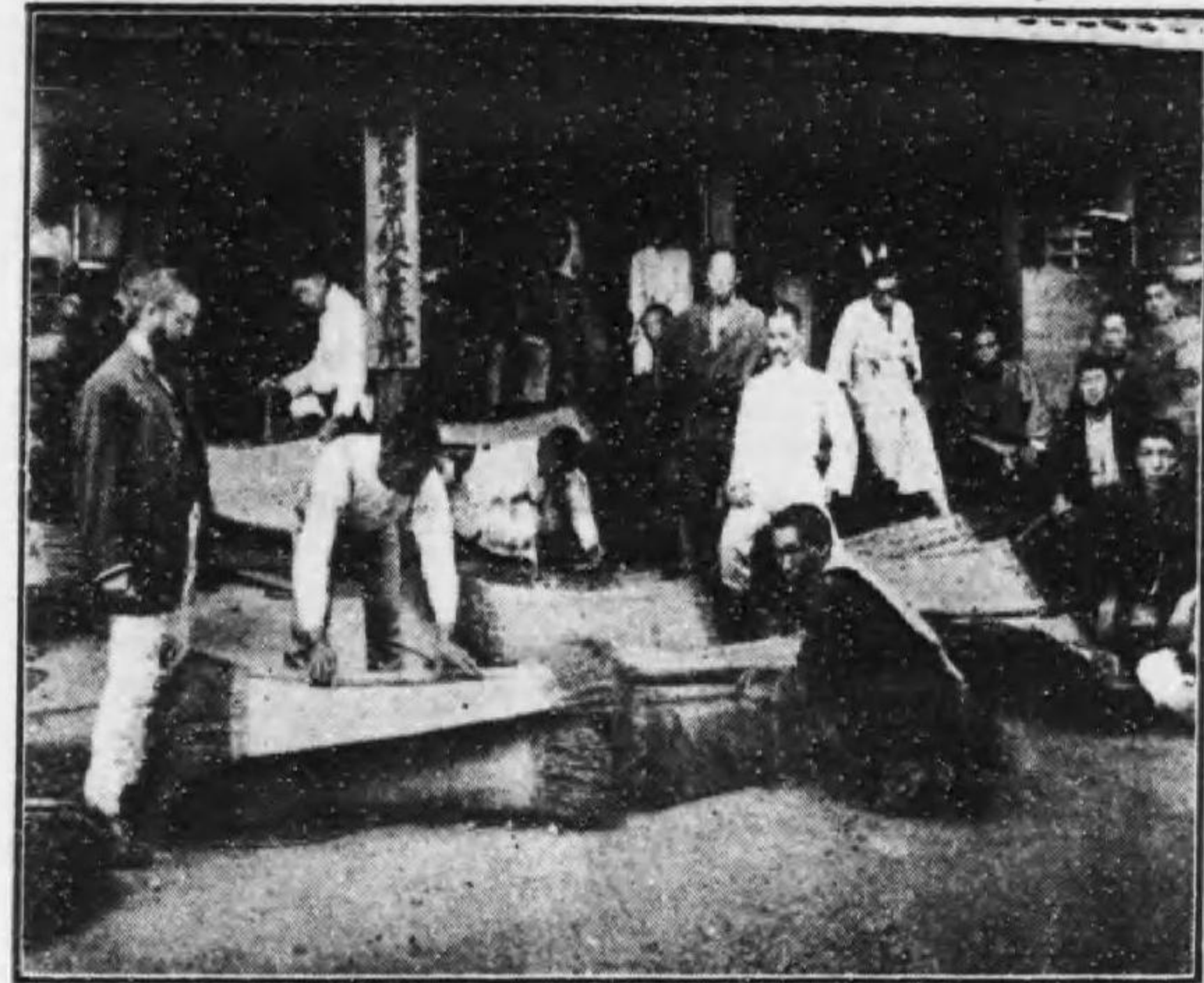
十二町瀉の排水

口 水 排 の 瀉 町 二 十

業組合は氷見町字七間町に設置し、検査員をして製品の検査を實行しつゝある等年次盛況を顯しつゝあり。

五 十二町瀉の排水

中越線氷見驛附近に十二町瀉あり、往時氷見町湊川の一川を以て排水路となせる爲め、霖雨の候湖水氾濫して周囲の水田常に其の害を蒙り收穫を減ずること甚し、大字十二町村の住民故矢崎嘉十郎當時の御扶持人十村役笠間作



查 檢 蔘 蘭 の 合 組 蔘 蘭

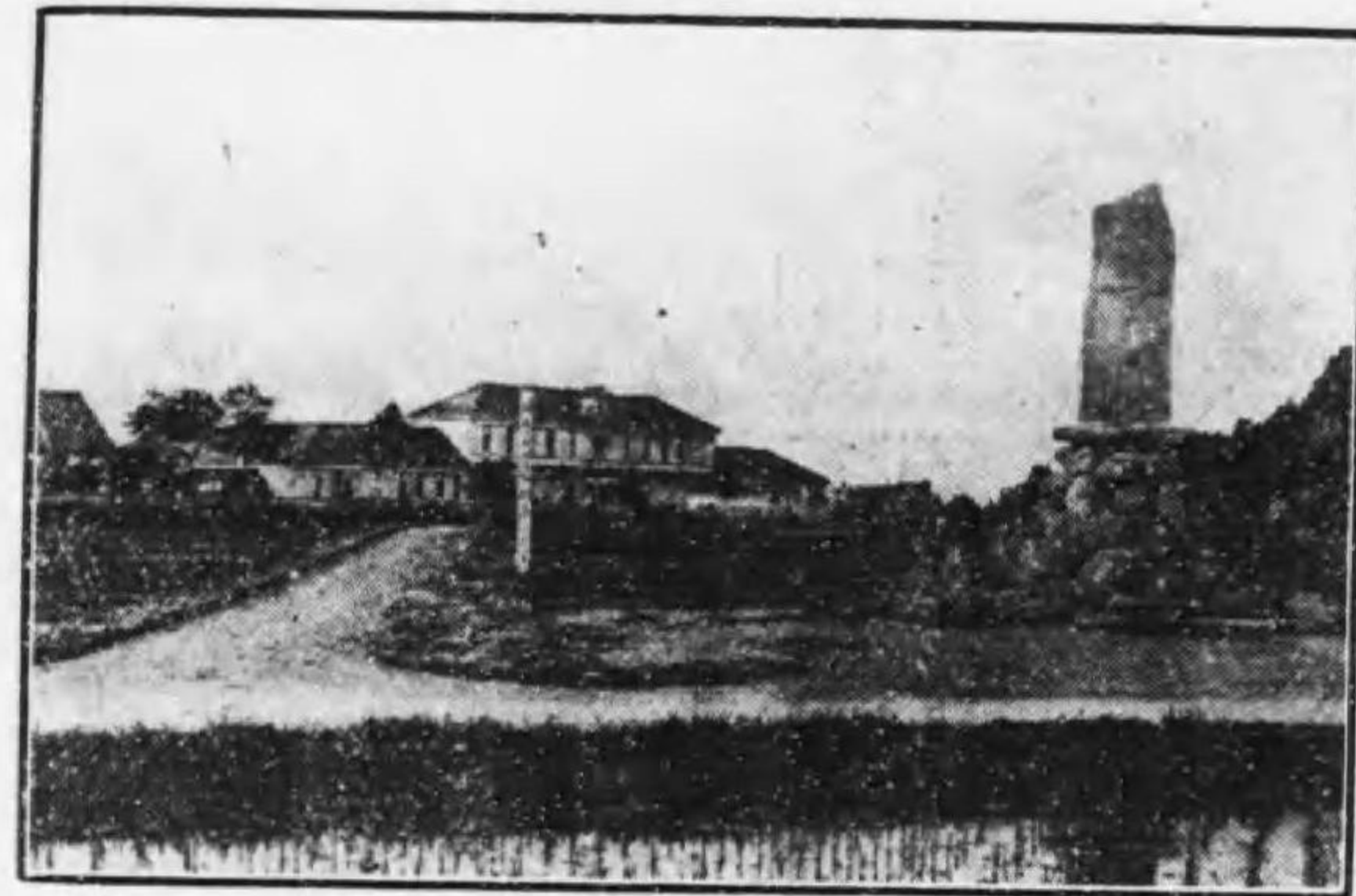
合に補助金を交附し、技術員を設置せしめ、指導奨励に努めしめたる結果、今や花蔘機械を利用し紡績絲を經として八十目以上の疊表を生産し、從來の氷見表の面目を一新せり、尙ほ他に内地向并に輸出向花蔘の製作あり、九寸莫蔘、八寸莫蔘、七寸莫蔘、着莫蔘、冠り莫蔘、小莫蔘の製作あり其の年額十五萬圓に達し、蘭草栽培の面積亦八十町餘、生産者の組織する氷見郡蔘蔘同

五郎に謀り藩に請ひて新たに排水路の開鑿を企て、數千百の人夫を督勵して工事に着手せしか、一夜大雨の爲め堤防崩壊し人をして其の成功を疑はしめたるも、堅忍不撓明治元年再び工を起し、自ら是が斡旋の任に當り、私貨を損て、勤勞に服し、翌二年八月を以て竣工せしめ田地五萬九千四町余の被害を除き、新に潟の沿岸五十餘町歩の美田を拓く其の功績の顯著なる洵に滅煙すべからざる一大事績たり、試みに新川の堤上に立つて其の工程の偉觀を恣にせんか當時慘憺たる苦心の狀態を察するに難からず。

六 氷見藁製品

氷見郡内に於ける藁製品は毎年二十五萬餘圓に上り地方農家の一大副

産たり、氷見藁蕙の製織は甚だ古く、明治二年加賀藩の奨勵に依り北海道輸出の目的を以て所謂南京蕙なるものを製織せしに初まり、爾來其の改良と販路の擴張とを計り幾多の變遷を経て名聲大いに高まりしが粗製濫造の弊漸く醸成し従つて聲價次第に失墜せり、茲に於て明治二十二年藁蕙商人協議し氷見藁蕙商同業組合を組織し、検査を實行してこれが弊害を矯正し、面目を一新するに至り、今や乾蕙、吠蕙、發明蕙、裏蕙、卷蕙、使蕙、蠶蕙を通じて年々十七萬五千圓に上り、各種の繩其の他の藁製品を合して其の産額毎年二十六萬圓に達し大部分は伏木港を経て北海道に輸出し、需要愈々増加の傾向を示しつつあり。



島巖紀念碑と縣立農學校

東礪波郡

一 縣立農學校

越中農界の偉人故島巖翁資産の一部を割きて、農學校設立の資に供せんことを遺言せるに基く、郡中稀なる歴史的關係ある富山縣立農學校は中越線福野驛附近にあり、同校は明治二十七年東礪波郡福野町に簡易農學校として創立せられ、遂に同三十一年に及び甲種程度の農學校に變更し今日に至

り、經費毎年一萬五千圓を投じ年次校運の發展を致し、今や卒業生五百餘、在學生三百五十、附屬土地七町歩、建物一千二百餘坪、實習地四町歩に及び、職員の数十八名を算し、尙ほ寄宿舎を設け常に約百名の寄宿生を收容す、福野町は偉人阿曾三左工門の開村にして彼の有名なる二七草市の如き亦阿曾か農政の遺績たり。

二 井波町の蠶種

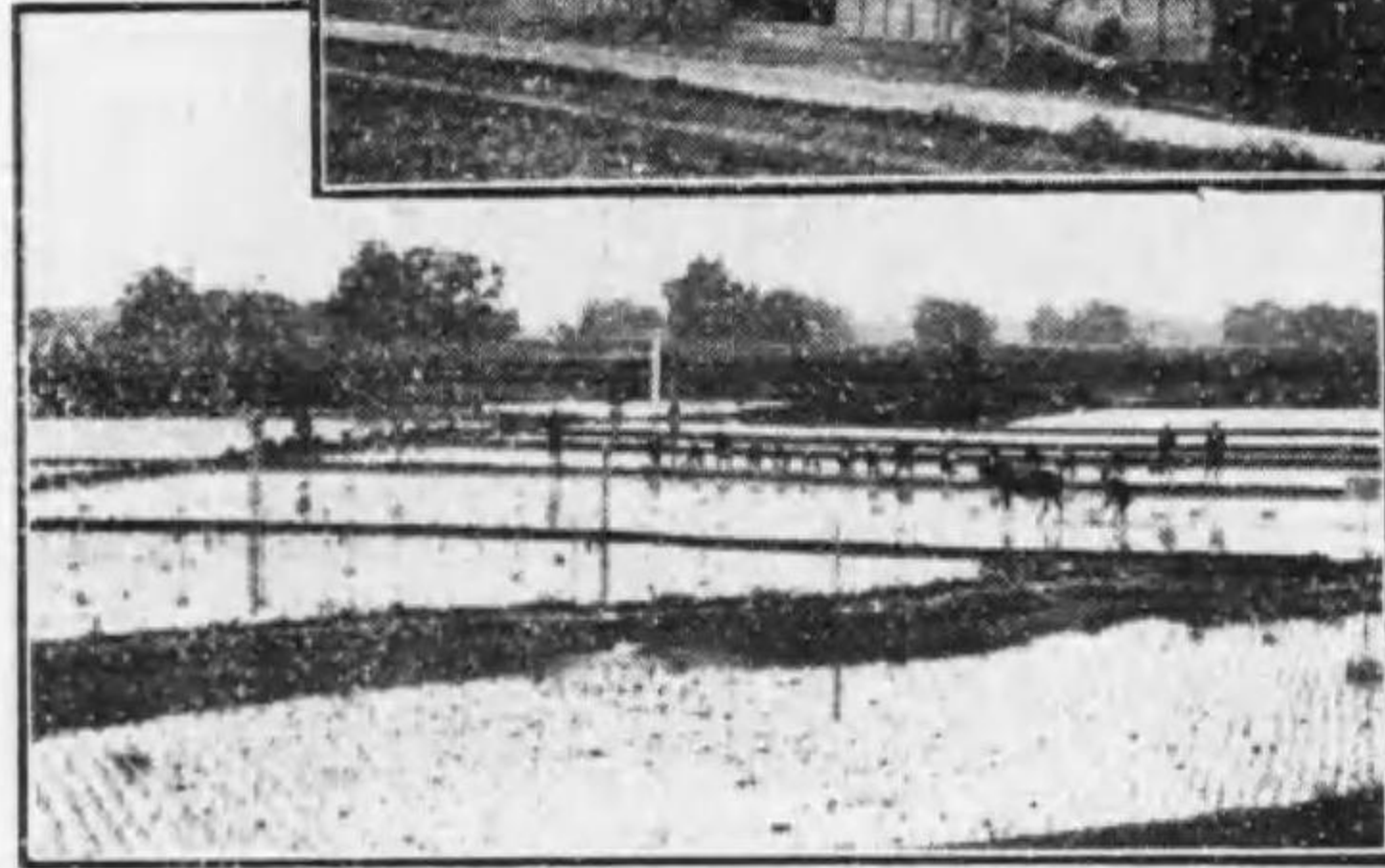
院線高岡驛より中越線に乗り換へ福野驛に下車し二里にして東礪波郡井波町に達す、慶長年間權右衛門なるもの採桑養蠶を試みたるを濫觴とせる井波町の蠶業は、特に蠶種製造の盛況を以て其の一斑を推知するを得べし、權右衛門は當時既に自己の産繭を以て蠶種を製造し附近農家に

分布し、延寶元和の頃名聲四方に喧傳し、時に或は隆盛を極め、時に或は蠶種場先の變動を蒙り、遂に慶應年間に至り海外輸出の蠶種製造盛んとなり、奸商の輩出と共に粗製濫造至らざるなく名聲地に落ちたるも、藩候これが救済の策を講じ、免許を下付して大に取締を嚴にし明治年間に及び、今や其の業大に進歩し時に精葉組を組織して検査を實行し、同郡を一圓として保寶組合を設けて粗製の弊を矯め、本場の名聲を保ちし結果、全國に販路を有し毎年三百萬枚を産出するの盛大を致せり、同町に瑞泉寺あり、所藏の聖徳太子像及び同繪像は地方信徒の尊信最も高し。

三 庄川流域の稻種

院線高岡驛より中越線に乗り換へ福野驛に下車し一里餘にして、本邦

越中稲種同業組合事務所



庄川流域稻種生産地

唯一の稻種産地たる東礪波郡種田村青島村中野村

に達す、この地は庄川の上流溪谷を出でたる一大平地にして地質は庄川の沖積層より成り、主として砂質壤土にして有機質極めて少なく、表土淺く下層砂礫より成り排水極めて佳良、加ふるに庄川沿岸に位せるが爲め灌溉水は常に清澄にして殊に庄川上流に重疊せる八乙女連峯より

吹き下す嵐は、庄川河流の作用に依り日夜新鮮なる交流を稻田に送り、爲めに稲葉に雨露を止めず、葉莖常に健全にして病菌害蟲の侵入を防遏し、稻種生産上遺憾なき自然要素を具備せる天賦の恵地たり、抑もこの地稻種の生産販賣を初めたるは遠く百五十年以前にして、爾來幾多の變遷を経て逐年其の需要を増し最早や舊時の生産状態を以て需要に應ずる能はざるに至るや、種田村に於ては明治四十一年有限責任五ヶ稻種信用販賣購買組合を組織し、又青島村に於ては明治四十二年有限責任青島稻種信用販賣購買組合を組織し、稻種生産者の保護に努め組合員に栽培原種を育成配付し、同時に其の販路の擴張を計り、更に明治四十三年九月に至り種田村、青島村、中野村の稻種生産地を網羅して一區域となし、越

中稻種同業組合を組織し生産稻種の検査を實行し銳意販路の擴張を計りたる結果、今や販賣額五十餘石に上り、内地各府縣は勿論、海外伊太利、米國、支那各地に輸出して名聲次第に上り、埼玉、石川、新潟、東京、島根等の各府縣は勿論各府縣郡農會の稻種田の栽培を依囑せられ盛況日に加はり、將に世界の稻種生産地たらんとす。

四 簗谷村の自治

院線高岡驛より中越線に乗り換へ終點城端驛に下車し、十餘町にして東礪波郡簗谷村に達す、同村は山麓に位置し元能美村と稱せしが明治三十一年分村せり、爾來村民の自治心に訴へ一村自治の發展に努めたる結果傾斜甚しき大字細野村の耕地六十町の整理を斷行して農界篤士の耳目



村谷箕の後理整地耕

を驚かし、林地三十町歩を二ヶ所に選定植樹をなし村基本財産の造成を計り、或は産業組合を設けて金融の利便を圖り、村農會の事業として農業是を調査し、一村農政策を確立して着々實行し、村農會の活動、部落有財産の統一、防衛救済、教育、宗教は勿論青年團矯風會の諸機關と共に活動し、民風素朴善良なる其の納税に際り各部落總代に現金を交付して領收證の交付を欲せざるに徴するも、其の一斑を知るに難からず、寔に縣下農村の模範たり。



口入取水石千七萬二

五 二萬七千石用水

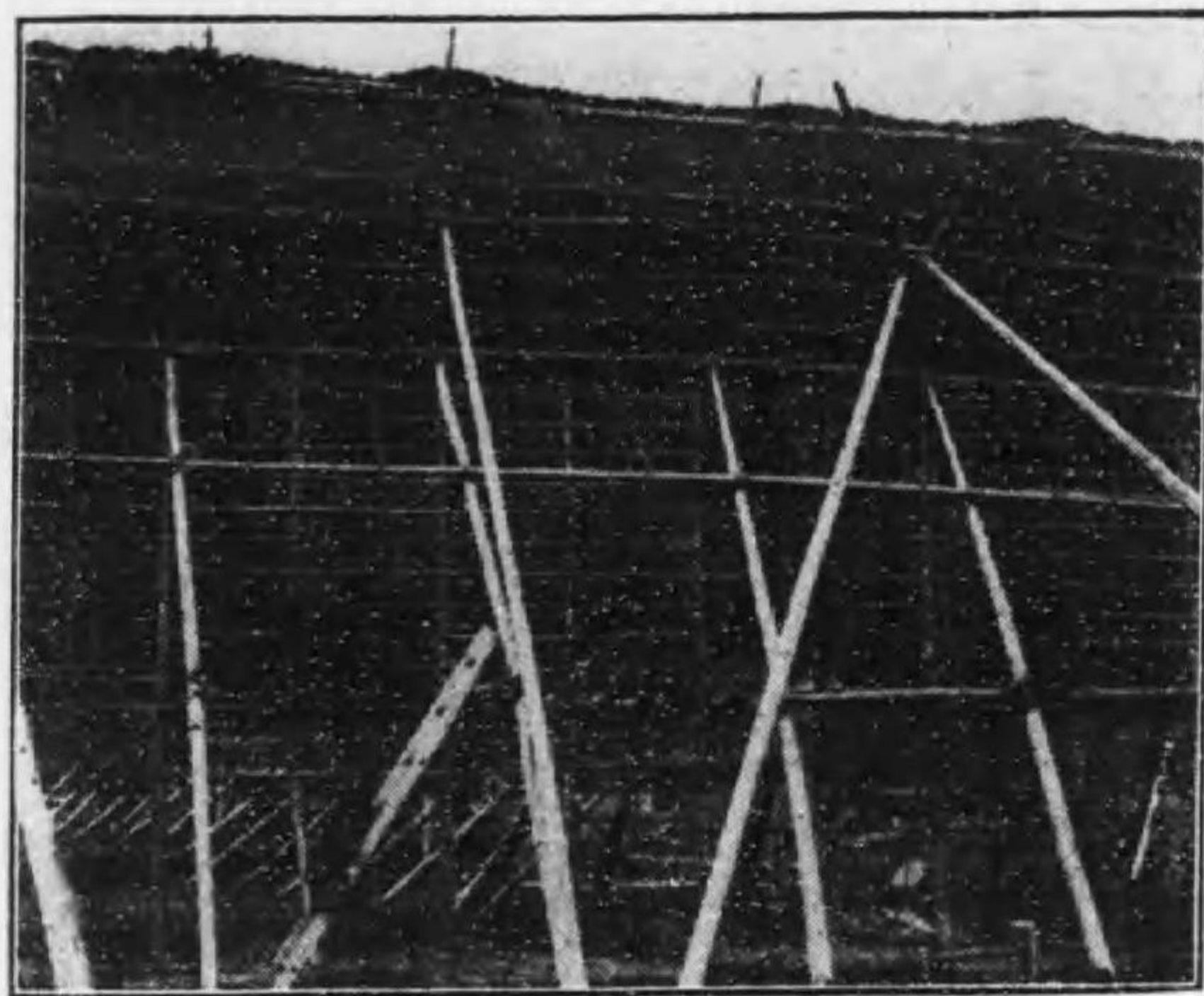
東礪波郡東山見村大字金屋岩黒字赤岩地内庄川左岸に取入口を有する二萬七千石用水は野尻岩屋口用水、新用水、山見八ヶ用水の合口せるものにして、往古は各用水夫々取入口を有し、其の經費多大なりしかば藩制時代に於て既にこれを合併し更に明治三十六年普通水利組合を組織せしめ郡長これを管理するに至り、今や東西礪波郡に涉り十

五箇村二千六百六十一町を灌漑し、取入口の構造壯大を極め、支流分水充分ならざるものは水車仕掛けを以てせる等附近庄川浚流の壯觀と共に地方の絶勝地をなせり、毎年經費二千四百圓、蓋し縣下有數の大用水たり。

西礪波郡

一 福光の吊柿

西礪波郡福光町を中心として東西礪波郡に涉り古來吊柿の生産あり、慶長年間美濃の人福光に移住し美濃ツルシの移植をなし製柿の術を傳習せしに初まり、享保の頃四五萬個を産出せしは記録の示す處たり、試みに



福光の吊柿

福光地方吊柿乾果の實況

院線高岡驛より中越線に乗換へ城端驛に進まんか福光驛附近一帶の農地到處小屋を造作し、内部無數の柿を吊し風力と日光とを以て乾燥せる光彩寔に盛觀なり、需要地は富山、高岡、金澤、大阪、東京、北海道を主とし各地に需要あり、毎年約三百萬個を生産し、累年生産額を増しつゝありと雖も、其の原料たる美濃ツルシ系統の澁柿通稱サンジャ柿の生産これに伴はざるは甚だ

遺憾なりと云はざるべからず。

二 無限責任山川信用組合

山川村は西礪波郡の東北隅氷見郡との境界山脈の間にある石堤村の一部落なり、郡内邊陲交通不便の爲め却て民心一致し、蠶業、蘭業、米作等總て共同的事業の實行圓滿なりしと雖も、賭博、放蕩の風あり家産を傾け或は經濟思想充分ならず、借金利率高騰の爲め土地を賣却せんとするもの多く、爲めに村勢頗る危険に陥りたれば、有志相謀り組合の設立を計畫せり、爾來慘憺たる幾多の徑路を辿りて今日に至り、山川部落の負債五六千圓は組合の資金融通に因り返還し、殘額僅に千三百圓内外に過ぎず、又副産業の發達、開墾事業の進涉は勿論、民心一致し團結力を



越中菅笠の造荷の實況

加へ浮華放蕩、賭博の惡風を掃ひ、美風良俗附近町村に洽き事績頗る見るに値するものあり、爲めに四十三年五月産業組合中央會より表彰せられ優良組合の一となれり。

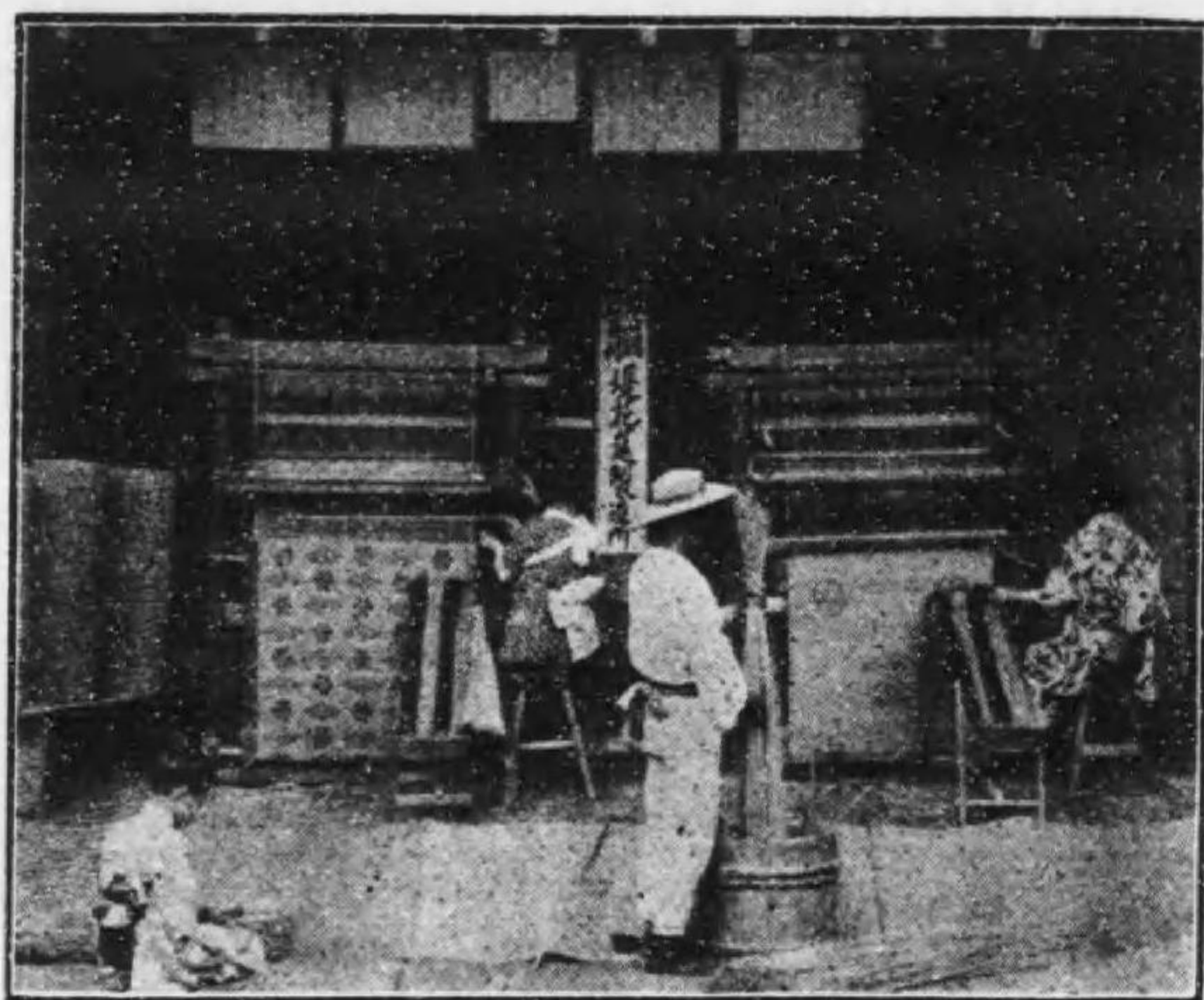
三 越中菅笠

院線福岡地方を中心として菅の栽培、菅笠の製造頗る盛なり、建久の頃野生の菅を以て簔を作り、嘉永年間禪師南岳なるもの笠を製し普及に努めたる

は越中菅笠の濫觴にして、爾來幾多の變遷を経て今日に至り、明治三十年重要物産同業組合法發布と同時に越中菅笠同業組合を組織して其の基礎を固めたるも、泰西文明の輸入は菅笠の需要に一大打撃を與へたれば元録笠、五徳笠其他二三の新案發明をなし、頽勢の挽回に努め、同四十四年有限責任五位庄菅笠蘭菴生産販賣組合の設立あり、極力それが改良發達に努めたる結果、菅の作は反別百三十町歩、産額二十萬八千束に上り、菅笠の製作販賣高十萬四千圓に達せるの盛況を呈し、地方特種の一大副産たるに至れり。

四 西礪波郡蘭菴同業組合

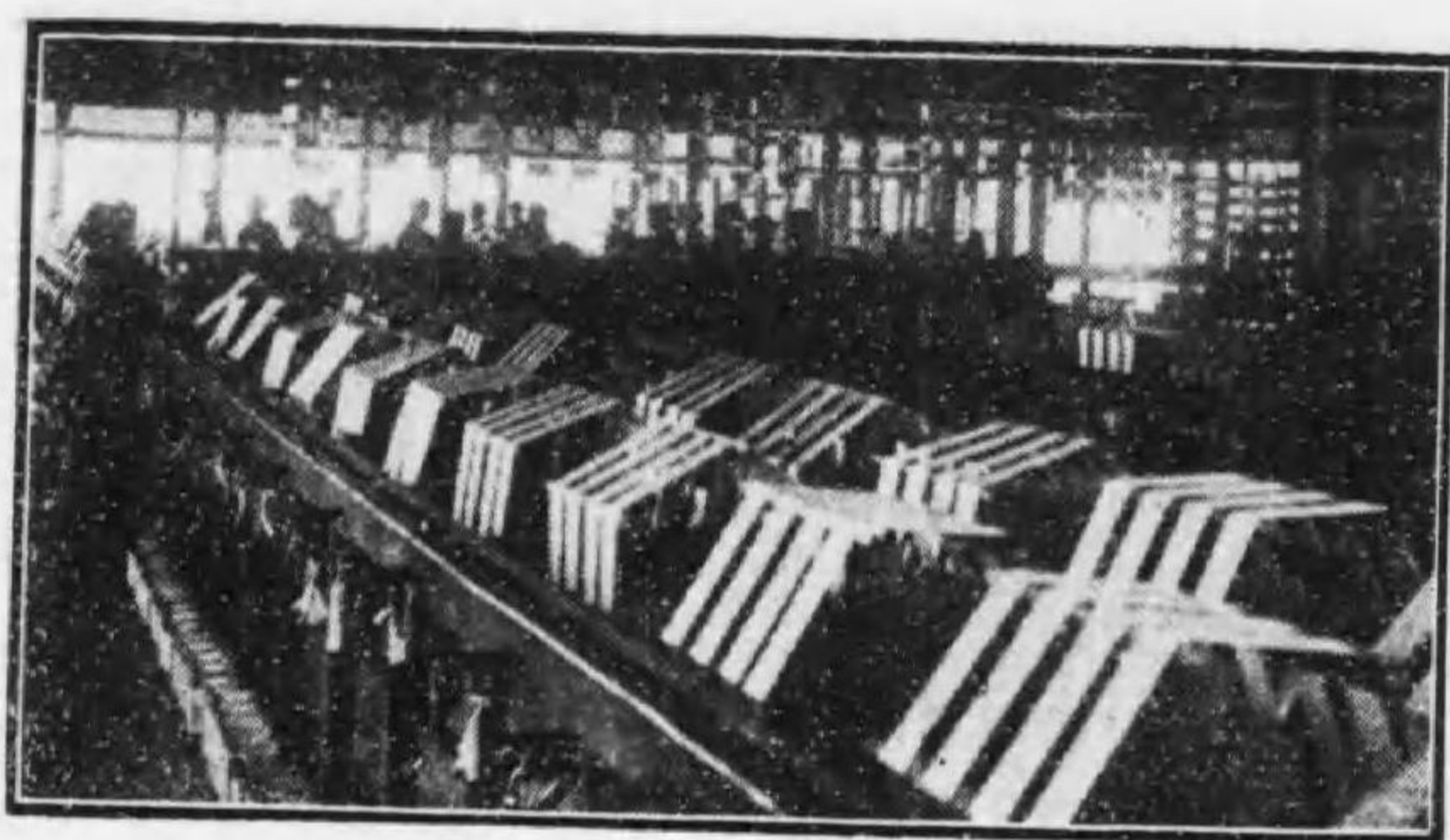
院線福岡驛を中心として蘭草の栽培蘭菴の製織甚だ盛なり、明治三十



西礪波郡蘭菴同業組合

蘭菴組合員の製織

四年蘭業の改良發展を計るの目的を以て、養彦助等の企劃に基き西礪波郡蘭菴同業組合を組織し、郡内一致努力斯業の助長を計りし結果、今や組合員百七十五名組合外の従業者百五十余名を算し、其の栽培反別の増加と共に收穫高の増大を致し、品質亦改良せられ染色製織の改良と相待ちて着々進歩改善を致し、殊に富山縣農會の獎勵に基く輸出花菴の製産尤も盛況を致し、製品



福光町製絲工場の盛況

の検査統一を實行せし結果海外に於ける名聲頓に高まり、地方農家の重要なる副製産品たるに至れり、附近西五位村に有限責任五位庄菅笠蘭蕙販賣組合あり、蘭蕙同業組合と共に視察調査上の利便大なり。

五 福光町の製糸

院線高岡驛より中越線に乗り換へ福光驛に下車せば西礪波郡福光町なり、慶長年間美濃國醫師某の妻絲を繰るの技を傳へたるに初まり、爾來幾多の變遷を経て改良發達の端緒を開きたる

結果聲價大いに舉り、明治七年一の製絲場を新築して機械製糸を開始し、或は西礪波南部蠶業組合を組織して一大乾繭場を設け、或は福光製糸同業組合を組織して斯業の改善に努めたる結果、生糸の品位増進し信用高まり斯業大いに振ひ、今や其の原繭は石川、福井、滋賀、三重、和歌山、埼玉、徳島、北海道等より移入するの盛況を見るに至り、生絲七分は海外へ輸出し他は内地各處に販賣す、寔に縣下第一の製糸地たり。

六 無限責任鷹栖村共同販賣購買組合

中越線出町驛より十五町にして西礪波郡鷹栖村に達す、本村の産業は米作農業を主とし他に副産業の見るべきものなく、金融上動々もすれば偏頗に陥り、爲めに農家の多くは肥料商の奸計に陥りしも大なる苦痛を

無限責任鷹栖村共同販賣購買組合



無責任鷹栖共同販賣購買組合の倉庫

忍びつゝ、毎年これを反覆せり、理事唐師孫太郎等これを憂ひ、遂に明治三十九年本組合を設立せり、爾來專念組合事業の經營に努めたる結果今や舊態を一變し、大正元年の如きは肥料等を主とせる購買高一萬二千餘圓、米穀を主とせる販賣高二萬二千餘圓に上れり、試に晩秋の候同組合を視察せんか、九十餘坪の組合倉庫は米穀肥料の出入繁盛を極め、集散の状態寔に一觀の價値

あるを思はしむ、尙ほ組合員中小作者より地主に納付すべき小作米は悉く本組合倉庫に提供せしめ、手數と時間とを省略し、而かも従前の弊害を一掃し兩者の親善一層加はれるを見る、爲めに産業組合中央會は其の事績を表彰し、範を地方に示せる亦故なしとせず。

富山市

一 富山縣内務部勸業課

富山縣内務部勸業課は本縣勸業各般の行政を司どり更に左の如く各掛りを置き事務の分掌をなす。

一、農務掛 農業及び、畜産肥料取締、米穀検査、農會、農事試験

富山縣内務部勸業課



稲田裏の紫雲英

場、内國移民、獸醫蹄鐵工、氣候、地質、測候所、家畜衛生、耕地整理其他勸業課中他掛の主掌に屬せざる事項を司どる。

二、蠶絲掛 蠶絲業各般に關する事項を司どる。

三、商工掛 産業組合併に同業組合、度量衡、博覽會、共進會、品評會其他商工業各般の事務を司どる。

四、水産掛 水産講習所、御獵場

其の他水産業に關する事務を司どる。

五、森林掛 林業獎勵、民有林監督、縣有森林及び縣營樹苗圃、保安林保安林内の砂防指定地取締、鑛業、森林會に關する事項を司どる。

二 富山縣米穀検査所

富山縣米穀検査所は富山縣内務部勸業課農務掛の主司に屬し、富山縣廳構内にあり、往時越中米の粗惡にして聲價日に衰へ殆ど救ふべからざるに至るや、縣民一致の輿論に訴へ米穀検査を實行せんとし、明治三十七年創設せり、縣下の要地富山、東岩瀬、八尾、滑川、五百石、魚津、三日市、泊、高岡、伏木、新湊、氷見、出町、福野、中田、福光、石動に出張所を設け、各一名の主任を置き各町村に産米及び輸出米検査員を配置

富山縣米穀検査所



蠶業取締と其の指導

し、縣内又は縣外に於て米穀を賣買讓與するものを検査せしめ、更に本所に米穀検査監督員を置き、所長其の全般を指揮せり、經費毎年七萬圓、爾來産米改良の效果大に擧り、聲價高く需要愈々増加の傾向を示すに至れり。

三 富山縣蠶業取締所

法律第四十七號蠶絲業法に依り設けられたる富山縣蠶業取締所は富山縣廳構内にあり富山縣内務部勸業課蠶糸掛の主管に屬し、富山、八尾、井波、氷見の各蠶業地に支所を設け、本支所に蠶業取締吏員を派

遣し、蠶絲業法に依り取締をなせり、爾來蠶絲業の改良發達を助けたること尠なからず。

四 富山縣農會

富山縣農會は富山縣廳構内にあり、明治二十六年の創立にして上新川郡、中新川郡、下新川郡、婦負郡、射水郡、氷見郡、東礪波郡、西礪波郡の八箇郡農會を以て組織し、爾來二十星霜、下は各郡農會並に二百六十九箇の町村農會を指導し、上は帝國農會に氣脈を通じ、今や地方農會に於ける有力なる自治的機關たり、經費毎年一萬圓を以て各種の農事調査、講習講話、會報發刊、家禽品評會、管外視察、地主會獎勵、稻原種田獎勵、各種園藝獎勵、産業組合指導、稻田裏作獎勵、二毛麥作獎勵、



婦貞郡卯花村の放牧

蘭業奨励の諸事業を行ひ、各郡農會に一名宛の技術員を派遣して郡町村農會指導の任に當らしめ、更に事務所にて技師一名技手三名書記二名を置き、各級農會と共に活動しつゝあり。

五 富山縣産牛馬組合聯合會

富山縣産牛馬組合聯合會は富山縣廳構内にあり、明治二十七年上新川郡、中新川郡、下新川郡、婦負郡、射水郡、氷見郡、東礪波郡、西礪波郡の八ヶ郡産牛馬組合を以て組織せられ、經費毎年三千餘圓を以て牝馬種付、産駒品評會、

講習講話、牝馬共同購入等の諸事業を行ひ各郡組合と相提携し、畜産業の改良發展を促すこと多大なるものあり。

六 産業組合中央會富山縣支會

産業組合中央會は富山縣廳構内にあり、明治四十一年八月の設立にして事務所は縣廳構内にあり、經費毎年二千餘圓を以て奨励員設置、講習講話、理事監事協議會、理事者實地視察、帳簿登記用紙配付、注意事項印刷配布、郡市部會補助、大會開設等の諸事業を施行し、下は中新川郡、下新川郡、東礪波郡、西礪波郡の各郡部會並に二百五十の組合を指導し、上は産業組合中央會に氣脈を通じ、一致協力組合啓發の爲めに全力を傾注しつゝあり。

高岡市

一 越中製乳株式會社

越中製乳株式會社は高岡市にあり、資本金三萬圓を以て大正元年十一月設立し、同二年一月開業の運びを見たり、地方農家の生産せる生乳を購入し製造しつゝあるものにして、一日一回の製造高五石余、毎日二回の製造をなしつゝあり、一罐一ポント入とし四十八個を一箱となし、大正印として縣下一圓は勿論長野、石川、北海道に移しつゝあり、工場は事務室、技師室、製罐室、機關室、砂糖室等に區分し最も精製に注意しつゝあり、爲めに設立日尙ほ淺しと雖も聲價頓に上れりと聞く、尙ほ

他にバターを製造し或は夏期精良なるアイスクリームを製造し市内料理店等に販賣しつゝあり、規模大ならざるも地方乳業者は勿論農家にして乳牛を使せるものは多少に拘はらずこれを會社に運出するを以て、利便頗る多く、地方畜牛界に貢献する所尠なからざるを見る、矢後孫人取締役社長の任に當り、他に取締役五名、監査役三名、技師松原四七其の主務たり。

富山縣農事視察要覽
終

附
錄

一 農事統計要覽

農家			土地	
數	戶	農ヲ專ラトスルモ ノ	民有地	
			租	有
自作	五六、四七四	兼 ヌル モ ノ	田	八二、四三町八反
			畑	一八二、八六九町四反
自作兼小作	一五、〇四九	兼 ヌル モ ノ	田	二六五、三三町二反
			畑	二八、七七八、四九一
小作	九、四六一	兼 ヌル モ ノ	田	五、四四三、九
			畑	四、〇一三、〇
總數	八〇、九八四	兼 ヌル モ ノ	田	一七六、一一〇
			畑	三九、一七七
		計	一六〇、七九四・八	三七、七三三、一五三
		山林	五、四四三、九	一七六、一一〇
		其他	四、〇一三、〇	三九、一七七
		計	一六〇、七九四・八	三七、七三三、一五三
		他業ヲ主トシテ農ヲ兼ヌルモノ	一六〇、七九四・八	三七、七三三、一五三
		總數	八〇、九八四	三七、七三三、一五三
		總數	八〇、九八四	三七、七三三、一五三
		總數	八〇、九八四	三七、七三三、一五三

附錄

面積區劃
面積
三〇一、方里
郡八、市二、町三、村三三九
官有地
民有地
計
●總段別百町ニ對スル民有地 六八町九反

附 錄	蠶絲及茶		畜產		實產	
	繭生眞製		牛馬豚牛鷺		實	
	種絲綿茶		乳卵卵		生干栗其 柿柿他	
	二〇、八二八石 二八、六九九枚 三、八五〇、二三四 三六、六七九貫	三、八五〇、二三四 一、一七四 四三、八一七	(出產) 三五九頭 三九七 四九 二、〇五三石 八、八四七、五四七個 一〇三、七五一	(搾高)	一、二七八、二二五 五〇、八一六 三、七五〇石	二七、九五一、〇五七 二四八、四八五
	六三八、一七七 四五、六〇一 九六、二五六 一、四二四、八〇〇	一〇〇、七二三 二二、二四四 一、四二四、八〇〇	一八、二〇四 二〇、〇一三 七八、九五四 一七〇、九〇六 三、七九一	二九一、九五七	一、一三、一三九 二〇、八五六 二九、四六〇 一九、七九一	二四八、四八五
	桑園 茶園	製系蠶 養蠶種 製茶	牛馬豚羊鷺 末數	全國米收最高順位 新潟、兵庫、福岡、千葉、富山	一、六〇八頭 一〇、八九八 一二三 五三 二八、六三六石 四、三七〇	四、四二五、四 五三、八七 三、四六三 一四、二〇六 三、一三八 三、一二六

附 錄	特用作物		果類	
	菜大芋漆楮三蘭其		梅梨桃	
	種麻麻樹椴他		計	
	二、五〇八石 九、四二七貫 七三三 二一、二八九本 一四六、八八四貫 四、九四〇 二三八、四〇〇 一、三六五	二四、七二七、五六三	四、五五八石 一八一、三四八貫 六七、一四二	二五、三三〇 三九、二四〇 一二、四八九 四七、二九九 四三、五三四 六五、四〇二 九、九六六
	二五、四九四 八、一九九 一、一〇一 一、三〇六 五八、六二一 一、八六九 七〇、五七二 六七九	一、三〇九、八五二	一六七、八四一	二八、五四五 二一、一八一 一五、五六七
	一段步收穫平均 米 農家一戶耕作地	市町村米收高等級 最高一萬五千石以上 最少千石以內		石 一、〇四六 一、二八六 反 二、七

附錄
三 旅館案内

町名	新富町	七軒町	總曲輪	同	同	同	同	同	同
電話番號	四三三	四二六	四六七	七七八	七七九	三四二	三一〇	一五五	
旅館名	北越館	神通館	聚星館	富山館	公園館	舟山館	泉館		
町名	總曲輪	旅籠町	西四十物町	中長柄町	東堤町	向川原町	仁右衛門町	櫻木町	
電話番號	四六四	二五七	六五	二五九	一三二	一六五	四一九	七〇九	
旅館名	松田館	高松館	堀佐館	明治館	澤屋	伊原屋	山村辰次郎	富山ホテル	

官設鐵道哩程及賃金

富山	東岩瀬	水橋	滑川	魚津	三日市	生地	入善	泊	石動	福岡	高岡	小杉	吳羽	富山	市內及驛ノ距離ハ高岡七町、東岩瀬二十七町、西水橋十二町、東水橋十七町、滑川十二町、魚津十八町、三日市十二町、生地二十三町ナリ
四、一八	三、一七	三、七四	三、七四	一、〇二	四、八〇	二、六五	一、〇〇	三、七二	四、九六	一、〇四	四、九六	一、〇一	四、八七	三、〇〇	
七、二二	三、一七	三、七四	三、七四	一、〇二	四、八〇	二、六五	一、〇〇	三、七二	四、九六	一、〇四	四、九六	一、〇一	四、八七	三、〇〇	
一、〇、六	六、五	一、二、七	一、二、六	一、〇、二	九、七	一、一、七	一、〇、七	二、七、三	一、〇、〇	五、四	四、九六	四、九六	四、八七	三、〇〇	
一、五、八	一、一、七	一、一、七	一、一、七	一、〇、二	九、七	一、一、七	一、〇、七	二、七、三	一、〇、〇	五、四	四、九六	四、九六	四、八七	三、〇〇	
一、九、八	一、五、七	一、五、七	一、五、七	一、〇、二	九、七	一、一、七	一、〇、七	二、七、三	一、〇、〇	五、四	四、九六	四、九六	四、八七	三、〇〇	
二、三、三	一、八、二	一、八、二	一、八、二	一、〇、二	九、七	一、一、七	一、〇、七	二、七、三	一、〇、〇	五、四	四、九六	四、九六	四、八七	三、〇〇	
二、七、三	二、三、二	二、三、二	二、三、二	一、〇、二	九、七	一、一、七	一、〇、七	二、七、三	一、〇、〇	五、四	四、九六	四、九六	四、八七	三、〇〇	
三、〇、五	二、六、四	二、六、四	二、六、四	一、〇、二	九、七	一、一、七	一、〇、七	二、七、三	一、〇、〇	五、四	四、九六	四、九六	四、八七	三、〇〇	

四 鐵道哩程賃錢表

附錄

モト税行通金賃等三ハ行左程哩ハ行右

立山輕便鐵道哩程及賃金

算出ノ方法
五哩以上
五哩以下
哩二付二錢五厘
哩二付二錢五厘
厘位四捨五入トス

									富山
								滑川	一〇、六
							西滑川	一、二	二、八
						梅澤	三、六	六、八	一、二
						堀江	一、四	一、七	二、九
						江上	一、四	二、七	四、一
						上市	三、九	六、一	九、二
						大岩口	一、五	二、七	四、一
						辻高原	二、五	四、一	五、八
						澤端	一、三	二、八	四、一
五百石	三、七	一、五	二、六	三、七	四、八	五、九	六、〇	七、一	八、二

右行哩程ノ左行等賃金通稅トモ

附錄

中越鐵道哩程及賃金

町及驛ノ距離ハ城端九町、福光ハ七町ナリ

									富山
								高岡	一、二
							雨晴	一、六	三、二
						伏木	二、一	四、二	六、三
						能町	二、五	五、〇	七、五
						高岡	一、一	二、二	三、三
						富山	一、二	二、三	三、四
						福野	一、五	三、〇	四、五
						福光	三、八	七、一	一〇、四
						城端	三、八	七、一	一〇、四

右行哩程ノ左行等賃金通稅トモ

附錄

津江直原米線

附錄

前日午後	市振發 六、三二 八、四六 一、五五 二、五八 七、二四 九、三五	水橋發 五、〇五 七、二九 一、〇二 五、三五 八、〇二
直江津發	青海發 六、五八 九、一三 一、一九 三、二五 七、五一 一、〇七	滑川發 五、一四 七、三三 一、〇七 一、四四 八、〇一
名立發	糸魚川發 七、二五 九、二九 一、三六 三、四一 八、〇七 一、〇二	魚津發 五、二九 七、四六 一、〇五 一、五八 八、三〇 一、二八
能生發	能生發 七、五一 九、五八 一、〇三 四、〇八 八、三三	三日市發 五、四〇 七、五七 一、〇三 二、〇八 八、四二
糸魚川發	名立發 八、一七 一、〇二 一、三六 四、三二 九、〇四	生地發 五、五〇 八、〇六 一、一六 二、二一 八、四九
青海發	直江津發 八、五〇 一、五九 二、〇四 五、〇九 九、三七 一、四五	入善發 六、〇四 八、二〇 一、二六 二、三一 九、五二 九、〇三
市振發	翌日午前 八、三〇 一、三〇	泊發 六、一五 八、三〇 一、三六 二、四二 九、〇六 一、一九

院道鐵

下

五瀛車發着時間表

附錄

福岡發	直通列車 前日午後 新橋 一、二、二五 京都 五、〇〇 神戶 五、五〇 姫路 七、三〇	米原發 翌前 一、〇五 三、五〇 七、三四	敦賀發 三、〇八 五、五六 九、三九	福井發 五、三一 八、三三 二、一六 四、三五 七、一五 一、三〇	金澤發 五、〇五 八、一一 一、一八 三、二五 五、二二 七、〇〇	津幡發 五、二八 八、三五 一、四一 三、四八 五、四九 七、三七 一、二四	石動發 五、五八 九、〇四 一、二二 四、二〇 六、二三 八、一三 一、五七
高岡發	六、一〇 九、一五 一、二二 四、三三 六、三四 八、三四 一、〇八	六、二五 九、三一 一、三八 四、五〇 六、五三 八、五三 一、二二	六、三七 九、四三 一、五〇 四、〇二 五、〇五 七、〇五 一、三四	六、四八 九、五四 一、〇一 三、一四 四、一七 六、一七 八、一七 一、〇二	六、五七 九、〇三 一、一〇 三、一七 四、二〇 六、二〇 八、二〇 一、〇三	四、四五 七、〇三 一、〇九 三、一六 五、二二 七、三二 九、三二 一、四二	四、五六 七、〇四 一、一〇 三、一七 五、二四 七、三二 九、三二 一、四二
小杉發	六、三三 九、三八 一、四五 四、〇二 五、〇五 七、〇五 九、〇五 一、一五	六、四三 九、四八 一、五五 四、一〇 五、一三 七、一三 九、一三 一、二五	六、五二 九、五七 一、〇四 三、一七 四、二〇 六、二〇 八、二〇 一、〇三	七、〇一 一〇、〇六 二、一六 四、二三 五、二六 七、二六 九、二六 一、三九	七、一〇 一〇、一五 二、二五 四、三二 五、三五 七、三五 九、三五 一、四七	七、二〇 一〇、二五 二、三五 四、四二 五、四五 七、四五 九、四五 一、五七	七、三〇 一〇、三五 二、四五 四、五二 五、五五 七、五五 九、五五 一、六七
吳羽發	六、四八 九、五四 一、〇一 三、一四 四、一七 六、一七 八、一七 一、〇二	六、五七 九、〇三 一、一〇 三、一七 四、二〇 六、二〇 八、二〇 一、〇三	七、〇六 一〇、一〇 二、二〇 四、二七 五、三〇 七、三〇 九、三〇 一、四二	七、一五 一〇、二〇 二、三〇 四、三七 五、四〇 七、四〇 九、四〇 一、五二	七、二五 一〇、三〇 二、四〇 四、四七 五、五〇 七、五〇 九、五〇 一、六二	七、三五 一〇、四〇 二、五〇 四、五七 六、〇〇 八、〇〇 一〇、〇〇 一、七二	七、四五 一〇、五〇 三、〇〇 五、〇七 六、一〇 八、一〇 一〇、一〇 一、八二
富山發	六、五七 九、〇三 一、一〇 三、一七 四、二〇 六、二〇 八、二〇 一、〇三	七、〇六 一〇、一〇 二、二〇 四、二七 五、三〇 七、三〇 九、三〇 一、四二	七、一五 一〇、二〇 二、三〇 四、三七 五、四〇 七、四〇 九、四〇 一、五二	七、二五 一〇、三〇 二、四〇 四、四七 五、五〇 七、五〇 九、五〇 一、六二	七、三五 一〇、四〇 二、五〇 四、五七 六、〇〇 八、〇〇 一〇、〇〇 一、七二	七、四五 一〇、五〇 三、〇〇 五、〇七 六、一〇 八、一〇 一〇、一〇 一、八二	七、五五 一〇、六〇 三、一〇 五、一七 六、二〇 八、二〇 一〇、二〇 一、九二
東岩瀨發	四、五六 七、〇四 一、一〇 三、一七 四、二〇 六、二〇 八、二〇 一、〇三	四、六五 七、〇九 一、一五 三、二二 四、二五 六、二五 八、二五 一、一三	四、七四 七、一八 一、二〇 三、二七 四、三〇 六、三〇 八、三〇 一、二三	四、八三 七、二七 一、二五 三、三二 四、三五 六、三五 八、三五 一、三三	四、九二 七、三六 一、三五 三、四二 四、四五 六、四五 八、四五 一、四三	五、〇一 七、四五 一、四四 三、五一 四、五四 六、五四 八、五四 一、五二	五、一〇 七、五四 一、五三 三、六〇 四、六三 六、六三 八、六三 一、六二

附 錄	中		
	上	り	
	油田發	石動發	一〇、八、二、一 一、四、九、五
	出町發	津幡發	一〇、八、五、二 一、四、二、〇
	高儀發	金澤發	一、九、五、二 一、四、三、〇
	福野發	福井發	一、八、五、二 一、三、四、〇
	福光發	敦賀發	一、二、二、〇 一、四、五、三
	城端發	米原着	一、二、二、〇 一、四、五、三
		直通列車	新橋 四、四、五 京都 九、五、八 翌日午後

表 間 時 着 發 間

		上	附 錄
東岩瀨發	泊發	午前	
九、四、三	一〇、七、五、一 一、四、三、五	八、〇、五	四、〇、五
着	入善發		
九、五、七	一〇、七、五、二 一、四、三、五	八、五、三、〇 〇、一、〇、二	一、八、六、三、〇 一、〇、二、五、〇
發	生地發		
一〇、七、五、〇	一〇、八、五、二 一、四、三、五	八、五、三、四 三、四、六	一、八、六、三、〇 一、五、五、〇
吳羽發	三日市發		
一〇、七、五、一	一、八、六、二 一、〇、二、四	九、六、四、〇 〇、一、〇、二	一、九、六、一、五 一、二、六、八、九
小杉發	魚津發		
一〇、七、五、二	一、八、六、二 一、〇、二、四	九、六、四、三 三、四、七	一、九、七、四、三 一、五、一、〇、〇
高岡發	滑川發		
一〇、七、五、三	一、八、六、二 一、〇、二、四	九、六、四、五 四、五、七	一、〇、七、四、四 一、〇、四、三、三
福岡發	水橋發		
一〇、七、五、四	一、八、六、三 一、〇、二、四	一〇、七、五、一 一、二、五、七	一、八、五、一、〇 一、三、一、〇、八

時着發正改道鐵便輕山立

附 錄	下		車列續接		上	
	堀梅西滑	滑	驛着時刻	院線滑川	驛發時刻	院線滑川
	江澤川	川	下	上	下	上
前			上野出	直江津行		
前			直江津出	同 京都行		
後			米原出	同 上	米原行	
後			米原出	同 上	同 新橋行	
後			福井出	同 上	上野出	姫路行

表間時着發道鐵越

附 錄	下		上									
	城福福高	出油戶高	能伏雨鳥	冰								
五	城端着	福光發	福野發	高儀發	出田發	油出發	戶岡發	能町發	伏木發	雨晴發	鳥尾發	冰見發
百	七三三	七二〇	七〇五	六六四	六六三	六六二	六六一	六〇〇	五五五	五五三	五五二	五五一
石	四三八	四二八	四一三	三九八	三九七	三九六	三九五	三八四	三七八	三七六	三七五	三七四
前	九三三	九二一	九一〇	八八五	八八四	八八三	八八二	八七一	八六五	八六三	八六二	八六一
六	〇八	〇七	〇六	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一	九〇	八九	八八	八七
八	一〇	〇九	〇八	〇七	〇六	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一	〇〇	九九
二	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一
一	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三	二
四	四	三	二	一	〇	九	八	七	六	五	四	三
七	七	六	五	四	三	二	一	〇	九	八	七	六

表間

附錄

江上大辻澤五
岩高百
上市口原端石

七、七、七、七、七、七、
四、四、三、三、三、二、六

一、一、一、一、一、一、
四、四、三、三、二、一、八

一、一、一、一、一、一、
〇、五、五、四、三、三、〇

五、四、四、四、三、三、
一、一、〇、〇、五、四、
九、五、九、五、七、九

九、九、九、九、八、
三、一、一、〇、〇、五、
三、八、二、八、〇、二

大正二年九月二十五日印刷
大正二年九月二十八日發刊

發行所

富山縣廳構內

富山縣農會

富山縣富山市星井町五十三番地

發行人兼編輯人

中川滋治

東京市本所區番場町四番地

印刷人

平井登

東京市本所區番場町四番地

印刷所

凸版印刷株式會社分工場



274

403

終